永遠の真理

ETERNAL TRUTH

2017年 3月

「この日を神と共に」「教会（Ⅱ）」「キリストの働きの中心ー天の聖所」「玄米のいなりずし」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「教会（II）」 4

聖書の教え

朝のマナ

「この日を神と共に」 9

This Day with God

現代の真理

「キリストの働きの中心―天の聖所」 41

清めの特別な働き

力を得るための食事

「玄米のいなりずし」 48

お話コーナー

「試み（II）」 50

イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465
FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015　高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス　www.4angels.jp

メール　support@4angels.jp

発行日　2017 年 2 月 28 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Dreamstime on front cover;
Sermon view on pages 8, 40, Joe Maniscalco on back cover.

Printed in Japan

神の律法に対する戦い

神の律法に対する戦いは、天に始まったが、それは世の終りまで続くであろう。どの人もみな試みられる。全世界の人々が、従うか従わないかの問題を決定しなければならない。すべての人が、神の律法か人の律法かをえらばせられるのである。この点で区別の線が引かれる。二種類の人たちしかいないのである。どの人の品性も完全に明らかにされる。そして彼らはみな、忠誠の側をえらんだかそれとも反逆の側をえらんだかを示すのである。

それから終りが来る。神はご自分の律法の正しさを立証し、その民を救われる。サタンと、サタンに加わった者たちはみな断たれるのである。罪と罪人は、根も枝も滅びる（マラキ書四ノ一参照）。サタンは根であり、サタンに従う者たちは枝である。そのとき次のことばが悪の君に実現するのである。「あなたは自分を神のように賢いと思っているゆえ、‥‥ 守護のケルブはあなたを火の石の間から追い出した。‥‥ あなたは恐るべき終りを遂げ、永遠にうせはてる。」そのとき「悪しき者はただしばらくで、うせ去る。あなたは彼の所をつぶさに尋ねても彼はいない」。「彼らは ‥‥ かつてなかったようになる」（エゼキエル書 28:6-19; 詩篇 37:10; オバデヤ 16）。

これは神の側における専制的な権力行為ではない。神のあわれみをこばむ人たちは、自分がまいたものを刈り取るのである。神は生命の泉である。しかし罪に仕えることをえらぶとき、その人は神から離れ、したがって生命から自分自身を断つのである。彼は「神のいのちから遠く離れ」る（エペソ四ノ一八）。キリストは「すべてわたしを憎む者は死を愛する者である」と言われる（箴言八ノ三六）。神は、彼らがその本性をあらわし、その原則を示すように、しばらくその存在をおゆるしになる。それがなしとげられると、彼らは自分自身の選択の結果を受けるのである。サタンとサタンに加わっている者たちはみな、反逆の生活によって、神と調和しない立場に身をおくので、神の存在は彼らにとって焼きつくす火となる。愛であられる神の栄光は彼らを滅ぼすであろう。（各時代の希望下巻 290, 291）

聖書の教えXV

20章　神の教会（II）

組織

わたしたちが礼拝する神は、秩序の神です。それゆえに、神は教会生活のあらゆる面において、秩序の規律が実行されることを期待されます（コリント第一14:33, 40）。新約時代の組織における最初の一歩は十二使徒の按手でした（マルコ3:14）。さらなる段階がとられたのはその後でした。使徒時代の教会は使徒パウロに描写された「霊的な賜物」をもって祝福されました。「そして、神は教会の中で、人々を立てて、第一に使徒、第二に預言者、第三に教師とし、次に力あるわざを行う者、次にいやしの賜物を持つ者、また補助者、管理者、種々の異言を語る者をおかれた」（コリント第一12:28）。教会組織の必要性は、聖書の中の様々な象徴によって確認されており、それらは聖書が組織された単位であることを示しています（エペソ4:11–16; コリント第一12: 20–27（散らばった骨ではなく、体である）；ヨハネ10:16（散らされた羊ではなく、囲いである）；コリント第一10:17（散らばったパン屑ではなく、一つのパンである）；エペソ2:19–22（散らばった石ではなく、一つの建物である）。

「同胞の共労者から離れようとする精神、無秩序の精神こそ、まさにわたしたちが呼吸している空気の中にある。ある人々は、秩序を打ち立てようとするすべての努力を危険―個人の自由の制限―であり、ひいてはローマカトリックの制度としておそれるべきものとみなす。これらの欺かれた魂は、自分が単独で考え行動する自由を誇ることが徳だとみなす。彼らはだれの見解をも受け入れず、どの人の指示にも素直に従うことはしないと宣言する。わたしは、サタンが特別な努力を払って、人が自分の兄弟たちの勧告と関係なく自分自身の道を選ぶことを神が喜ばれると感じるように導くことを示された。……

「ああ、徹底的な組織が重要不可欠であり、また偽物の台頭を締め出し、神のみ言葉によって是認されていない主張の誤りを証明するのに、その徹底した組織が最大の力となるはずの時に、サタンがこの民の中に入り込んで、働きの組織を破壊するために払う努力において成功できたら、どれほど喜ぶことであろう！わ

たしたちは賢明で注意深い働きによって打ち立ててきた組織の体系や秩序を打ち壊すことがないように、方向の均衡を保ちたいのである。現代の働きを支配しようと願う無秩序の要素に許可を与えてはならない。

ある人々は、わたしたちが終わりの時に近づくにつれ、すべての神の子らはどの宗教組織からも独立して行動するようになるという思想を提示してきた。しかし、わたしは主により、この働きにおいてすべての人が独立するなどということはないと示されてきた。……

ある働き人は神が自分に与えてくださった力を尽くして引っ張るが、自分一人で引っ張るべきではないことをまだ学んでいない。自ら孤立する代わりに、同胞の共労者たちと協調して引きなさい。彼らがそうしない限り、彼らの活動は誤った時に誤った方向で働くことになる。彼らはしばしば神がなしてこられたことに相反して働くようになり、それによって彼らの働きは無駄になるよりも悪いのである」(教会への証 9 巻 257–259)。

権威

「神はご自分の教会に、無視したり蔑んだりすればだれも正当化されることのない特別な権威と力を授けてこられた。なぜなら、そうすることによって、神のみ声を蔑むことになるからである」(同上 3 巻 417)。

「キリストはご自分に従う人々を共に教会という組織に導き入れられ、秩序を守り、規則と規律を持ち、すべての人が互いに従い、他の人々を自分よりもすぐれた者とするよう望んでおられる」(同上 445)

「世の贖い主は、宗教的な事柄において、ご自分の教会があるところで、組織され認められたご自分の教会から独立した経験や働きをお認めにならない。多くの人々は自分の光や経験のために、ただキリストに対してのみ責任があり、世にあるこのお方のお認めになった従者たちからは独立しているという考えを抱いている。しかし、これはイエスによって、その教えの中で、その模範と、またこのお方がわたしたちの教訓のために与えてこられた事実において非難されている」(同上 432, 433)。

「ひとりの人が自分自身の個人的な責任に立って事をはじめ、教会の判断に関わりなく自分の選ぶ見解を採用するというようなことが支持されることはない。神は天の下においてご自分の教会に最高の力を授けてこられた。教会組織におけ

るこのお方の団結した民の中にある神のみ声こそ、尊重すべきものである」（同上 450, 451）。

「教会には、キリストに代わって行動する権威が授与されてきた。それは神の民の間で秩序と規律を守るための神の器である。教会に、主はその繁栄、純潔、秩序に関するすべての問題を解決する権限を委任してこられた。教会には、価値のない、すなわちそのキリストに似ていないふるまいによって真理に恥をもたらしている人々を教会の交わりから除名する責任が負わされている。神のみ言葉の中に与えられている指示に従って教会がなすことは何であっても、天で批准されるのである」（同上 7 巻 263）。

地上の神の教会の使命

（a）真にキリストの従う人々は、自分たちの信心深い生活を通して、世に対し強力な証を担う（イザヤ 43:10; マタイ 5:13–16; ヨハネ 12:35; 13:34, 35; ペテロ第一 2:9–12）。

（b）キリストを信じる信徒たちは真理を掲げ、教え、魂の救いのために働く（コリント第二 5:20; マタイ 28:19, 20; ローマ 1:14–16; コリント第一 9:16; エペソ 3:8–11; テモテ第一 2:3–7; マルコ 16:15; ルカ 14: 21, 23; エゼキエル 33:7–9）。

（c）残りの民の教会には特別なメッセージ、すなわちイスラエルの家、堕落した諸教会、そして一般的な世に伝えるべき現代の真理がある（マタイ 10:6; ペテロ第二 1:12; 黙示録 14:6–12; 18:1–4; ハバクク 2:14; イザヤ 60:1; マタイ 24:14）。

（d）キリストの体の肢体は、苦しむ者を救済するために召された（イザヤ 58:7, 8; マタイ 10:8; 25:34–40; マルコ 14:7; ヤコブ 1:27）。

（e）この終わりの時代に忠実な残りの民を通して成し遂げることを神が望んでおられる最も重要な働きは、人々を間近なキリストの再臨のために準備させることである（エペソ 5:26, 27; アモス 4:12; マタイ 24:44; ルカ 1:17; ペテロ第二 1:3–12; テサロニケ第一 5:2, 14–23; テトス 2:11–14）。

教会員の責任

相互の愛と弟子たちの間の敬意（ヨハネ 13:34–35）に基づいたすべてのクリスチャンの責任は、義務であると同時に特権とみなされる（ローマ 12:10; ペテロ

第一 5:5–6)。これらの責任には下記が含まれる：

(a) 自分たちのイエス・キリストとのつながりを維持すること (ローマ 11:17–24; ヨハネ 15:1–8; ガラテヤ 2:20)。

(b) 救いの福音のメッセージを他の人々に分かち与える (マルコ 16:15, 16; マタイ 28:19, 20)。

(c) 什一と自由献金において、自分たちの資金をもって真理のみ事業を定期的に支える (申命記 14:22; レビ記 27:30–32; 民数記 18:21; マラキ 3:7–10; マタイ 23:23; コリント第一 4:2; コリント第二 9:6–11; ヘブル 7:8 (黙示録 1:18 参照))。

(d) 定期的に、教会の定められた礼拝に出席する (ヘブル 10:25, 26; 詩篇 27:4; 122:1)。

(e) 自分たちの心を整え、忠実に洗足聖餐式に参加する (ヨハネ 13:1–17; マタイ 26:21–29; コリント第一 11:23–29; ヨハネ 6:53, 54)。

(f) 受けた責任を忠実に果たす (コリント第一 4:1, 2)。

(g) 教会の役員を尊重し、群れの世話において彼らと協力する (エペソ 4:11–13; ヘブル 13:17; テサロニケ第一 5:12, 13)。

「ほとんどのクリスチャンの信仰は、もし何度も集会や祈りのために集まることをなおざりにするなら、揺らぐのである。もしそのような宗教的な特権を享受することが彼らにとって不可能であれば、神は散らされているご自分の民を活気づけ、元気づけ、祝福するために、ご自分の御使たちによって天から直接光を送られることであろう。しかし、このお方はご自分の聖徒たちの信仰を維持するのに信仰を働かせようとはお申し出にならない。彼らは神から自分たちに授けられた特権と祝福を確保するために幾分かの苦労をするくらいは真理を愛するように要求されている」(同上 4 巻 106, 107)。

「わたしたちの兄弟が自ら進んで宗教的な集会を欠席するとき、神が考慮されず、敬われないとき、このお方が彼らの勧告者、また自分たちの強い防御のやぐらとして選ばれないとき、どれほどすみやかに世俗的な思想と邪悪な不信が入り込み、謙遜に信頼する信仰に、虚しい自信と哲学がとって代わることであろう」(同上 5 巻 426)。

「すべての信徒は心を尽くして自分の教会へ付着しているべきである。教会の

繁栄が、彼の第一の関心となるべきである。そしてもし、自分が教会につながっていることを自分自身よりも優先して教会にとって益とすべきであるという神聖な義務の下にいると感じない限り、教会はその人がいない方がはるかによく事をなすのである」（同上 4 巻 18）。

「実行委員会に出席している人々は、自分たちが神に、すなわち自分たちにその働きをお与えになったお方にお会いしているのだということを覚えているようにしなさい。敬神と心の献身をもって共に集まるようにしなさい」（同上 7 巻 256）。

「事務会に関心を示さない人々は、一般的に神のみ事業に本当の関心を持っていない。そしてこれらの人々こそ、わたしたちのさまざまな事業の運営があるべき姿になっていないと信じるよう誘惑される者なのである。

兄弟姉妹方、もしわたしたちが真理、すなわちわたしたちを誤謬の闇から神の律法の遵守へと導いてきた真理を愛するならば、わたしたちはその利益に関わる一切のことを高く評価するようになる。わたしたちの事務会においてすべてのことが明らかにされ、それによってすべての人がどのように自分たちの施設やさまざまな事業が運営され、維持されているかを理解できるようにする。そして彼らが知る機会を得ながら、それを改善しないなら、無知は罪である」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1884 年 4 月 29 日）

この日を神と共に

This Day with God

3月

3月1日

唯一の安全

「あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない。これはわたしとあなたがたとの間の、代々にわたるしるしであって、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、知らせるためのものである。」（出エジプト記 31:13）

みな自分で主を追い求めよう。永遠がわたしたちの前にある。あなたには主の側に自分の立場をおかずに、またもう一日を過ぎ去らせてしまうような余裕はない。あなたは地上歴史の最後の場面においてあなたが果たすようにと神が定められた役割を果たさないのであろうか。

過去の苦悩と天国の栄光が交じり合うときに地上に生存している神の民の経験がどのようなものであるかを描写することはとてもできない。彼らは神の御座から出ている光のうちに歩むのである。天使という手段を通して天と地との間に絶え間ない交信がある。そしてサタンは悪天使に囲まれ神であると主張しながら、もしできるなら選民をも欺こうとあらゆる種類の奇跡を行うのである。神の民が奇跡を行うことに安全があるのではない。なぜならどんな奇跡が行われても、サタンが偽造するからである。試みられテストされた神の民は、出エジプト記 31:12-18 に語られているしるしに、彼らの力を見出すのである。彼らは「こう書かれている」という生ける御言葉の上に立たなければならない。これこそ彼らが安全に立つことができる唯一の基である。自分たちの神との契約を破った者たちは、その日にはこの世において望みもなく神もないのである。

神の礼拝者たちは第四条の戒めに対する彼らの敬意によって特別に区別される。なぜならこれがこのお方の創造の力のしるしであり、人間の敬意と忠誠に対するこのお方の権利の証拠だからである。悪人は創造主の記念を破壊し、ローマの制度を高めようとする彼らの努力によって区別される。この争闘の問題のうちですべてのキリスト教国は大きく二種類―神の戒めとイエスの信仰を守り続ける者たちと、獣とその像とを拝みその刻印を受ける者たち―に分けられるのである。……

恐ろしい試みと試練とが神の民を待ち受けている。戦いの精神が端から端まで国々をかきたてている。しかし来るべき悩みのとき―国が始まってから、そのときにいたるまでかつてなかったほどの悩みのとき―において、神の選民たちは動かされることなく立つのである。サタンと彼の天使たちは彼らを滅ぼすことができない。なぜなら力に勝る天使たちが彼らを保護するからである。（手紙 119, 1904 年 3 月 1 日 J．J．ウェッセルズへ）

愛を励みなさい

「わたしは言った、『舌をもって罪を犯さないために、わたしの道を慎み、悪しき者のわたしの前にある間はわたしの口にくつわをかけよう』と。」（詩篇 39:1）

わたしの子供たちよ、祈りつつ見張り、あなたの言葉と行状について、もっともっと注意深くなりなさい。「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい」（マタイ 26:41）。敵にわずかでも利益を与えるとはおそまつな方針である。わたしの子よ、紳士らしくありなさい、そうすればあなたは自分が共に働く人々に及ぼすあなたの感化力を強めることになる。無分別に語ってはならない。自らをキリストの代表者としてみなし、怒りに負けないようにしなさい。もしわたしたちがキリストのくびきを負うことによって自らを保つなら、わたしたちは十倍もわたしたちの感化を増加させるのである。

人性は人性のままであるが、神性との結合によって高められ高尚にさせられることができるのである。男女が世にある欲のために滅びることを免れるのは、神性を受けることによってである。

真理が世において力となるためには実践されなければならない。真理が心のうちに宿るとき、日毎の経験はキリストの恵みの支配力の現れである。真理を外庭に閉め出しておいてはならない。聖霊にそれを魂の上に押していただきなさい。……

神とこのお方の買い取られた所有とを敬いなさい。あなたはキリストの代表者なのだから、自分の態度に気をつけなさい。あなたの言葉を注意深く守り、罪人の確信と改心のために熱心に働きなさい。祈りのうちに心を神へとひきあげ続けなさい。不親切で真実ではない言葉があなたに語られたとき、自制心を失うことがないようにしなさい。「柔らかい答は憤りをとどめ、激しい言葉は怒りをひきおこす」こと、また自分の精神を治めることができる者は、城を攻め取るものよりも偉大であるということを覚えなさい（箴言 15:1）。

真のクリスチャンは紳士である。自負心によって満たされている者たちは、語らずにいる方がよい多くのことを語ることが自分たちの特権であると考える。より言葉を少なくし、親切な行いを多くするとき、彼らは自らを善のための力となすのである。神は「あなたは、自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされるからである」と宣言される（マタイ 12:37）。わたしたちのすべての善悪の言葉と行いは、神のみ前で調査されている。何と厳粛なことだろう。

神のみ言葉は互いに怒りを引き起こしてはならないと警告している。しかし引き起こすことが正当とされるものが一種類ある。パウロは……「愛と善行とを励むように互に努め」と書いている（ヘブル 10:24）。（手紙 38, 1903 年 3 月 2 日、エドソンとエマ・ホワイトへ）

3月3日

受け入れられる大望

「主は言われた、『わたしはわたしのもろもろの善をあなたの前に通らせ、主の名をあなたの前にのべるであろう。わたしは恵もうとする者を恵み、あわれもうとする者をあわれむ』。」（出エジプト 33:19）

この描写のうちに、主はご自分がその民のうちに品性の純潔、すなわち生活における聖潔を要求しておられるという教訓を教えようと望まれた。このお方は彼らの中で、あわれみと愛のこもった親切さと忍耐がお互いに表されるのをみたいと望んでおられる。それは、ご自分の民が、「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ、主のあかしは確かであって、無学な者を賢くする」ことを実証できるためである（詩篇 19:7）。主はもしわたしたちの心がこのお方を求め、このお方に仕えているなら、いつでもご自身を表してくださる。純真な心をもってこのお方に仕える者たちに、最も豊かな祝福を与えることが、このお方の変らぬ願いである。もしわたしたちがこのお方の訓戒に心を開き、このお方の声に聞き従うなら、キリストがわたしたちの教師になられるのである。……

あなたが善のために幅広い感化を及ぼすというのが、主の御旨である。あなたは確固たるクリスチャンになることを決心したであろうか。それならあきらめたり、落胆したりしてはならない。あなたが神の同労者となることができるように、あなたの働きが向上させる感化力を持つようにしなさい。主はわたしたちすべての者がご自分の御名に栄光を帰すことを望んでおられる。

昨晩、なされるべき偉大な働きに関して、わたしの上に非常な重荷が置かれていた。それは人が持つすべての能力を働かせるように要求する働きである。あなたは自分をイエス・キリストと完全に一致させるような方法で、自分の能力を働かせないのであろうか。わたしたちは親や教師として、神なる教師と協力すべきである。わたしたちは見失われてきた道徳的義務感を男女のうちに回復するために働くべきである。今、すべての親は神のご計画と協力し、そうすることによって神との同労者となろうではないか。

わたしたちの様々な能力はすべて神に属するのである。このお方はご自分のひとり子という賜物によってわたしたちを買い取られたのであり、神に対する自分たちの義務を感じる者たちは、神のご目的と協力するのである。第三天使のメッセージを世に与えるこの働きにおいて責任を担っている者たちは、神の働きを進展させるために断固とした目的を示すべきである。卓越性の最高の段階―神のご品性に似ること―にまで到達できるように、心と魂と声がこのお方に捧げられるべきである。主がわたしたちに賜ったすべての機能やすべての特質は、わたしたちの同胞を高めるために用いられるべきである。わたしたちが無私の精神をもって働きながら、自分たちの最善を尽くすとき、主はわたしたちの奉仕を受け入れられる。（手紙 50, 1909 年 3 月 3 日、ある自営業の医師へ）

3月4日

道中において一歩ごとに

「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。」（エペソ 2:8）

わたしたちは自分自身で信仰を造りだすことさえできない。それは「神の賜物である」（エペソ 2:8）。わたしたちの救い全体はわたしたちの主なる救い主イエス・キリストの賜物を通して来るのである。わたしは何と喜ぶことであろう。それはわたしたちが疑うことができないような源から来るのである。そしてこのお方は「創始者」であられるが、それだけで終わるのであろうか。それだけで終わってしまうのであろうか。「信仰の導き手（創始者）であり、またその完成者」であられるのである（ヘブル 12:2）。神に感謝せよ。もしわたしたちがキリストの定められた方法のうちに、すなわちこのお方のご要求への従順を通して救われたいと望むなら、このお方はわたしたちの道中における一歩ごとにわたしたちに付き添ってくださるのである。「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である」（エペソ 2:8）。「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい」（ピリピ 2:12）。これはどういう意味であろうか。これは矛盾ではないであろうか。最後に何と言っているか見てみよう。「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」（同 12, 13 節）。神を讃美せよ。そうであればだれが落胆するのであろう。だれが弱るであろうか。自分の救いの達成に努めることは、わたしたちに、すなわち弱くて力のない死すべきわたしたちが自分でするようにと委ねられているのではない。あなたのうちに働きかけられるのはキリストである。そしてこれはアダムのすべての息子娘の特権である。しかしわたしたちは働かなければならない。わたしたちは怠け者であってはならない。わたしたちは働くためにこの世に置かれたのである。わたしたちは腕組みをしてこまねいているために、ここに置かれたのではない。（原稿 18, 1894 年 3 月 4 日「神との同労者」）

キリストは真理を教えられた。なぜなら、ご自分が真理であられたからである。ご自身の考え、ご自身のご品性、ご自身の生涯の経験は、ご自分の教えの中において具体化されていた。このお方の僕も同様である。み言葉を伝える者たちは、個人的経験によってそれを自分のものにするべきである。彼らは自分たちの知恵となり、義と聖とあがないとになられたキリストを持つということが何を意味しているかを知らなければならない。他の人々に神のみ言葉を提示する際、彼らはそれを「そう思う」とか「おそらく」といったものにしてはならないのである。彼らは使徒ペテロと共に「わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを、あなたがたに知らせた時、わたしたちは、巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだからである」と宣言すべきである（ペテロ第二 1:16）。……

働き人が主の奉仕にあますことなく献身するとき、彼は主人のためにますます首尾よく働くことができるような経験を得るのである。（手紙 86, 1907 年 3 月 4 日「大都市にあるわたしたちの教会」へ）

3月5日

言葉以上に

「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。」（箴言 4:23）

生活の徹底的な清めがなければ、また思いの柔和と謙遜がなければ、キリストに従うと自称している者たちは、世の前でこのお方に誉れを帰すことができない。もしキリストの恵みが彼らの生活に表されないのであれば、このお方がご自分を愛しご自分の戒めを守る者たちのために用意しに行かれた天のすまいに入ることを彼らが許可されることは決してないのである。

主の道に歩んでいると公言しながら、改心していない自己の方法と習慣をその公言の中に取り入れ、それらによって自分たちの品性を損なっている人々が、わたしたちの教会員の中に多くいる。家庭と教会生活に軽薄な事柄があまりに多く持ち込まれているために、キリストの御霊が深く悲しんでおられる。眠た気な無関心から目覚めない限り、家族全体が失われてしまうような者たちがわたしたちの中にいる。なぜなら彼らは日毎に改心していないからである。彼らは真の信心という神聖な科学を理解していない。それゆえに彼らは主がお用いになることのできる器ではないのである。彼らはサタンに自分たちの言葉と行動の手引きと支配を許してきたが、彼らは自分たちの自己称揚によって、どれほど魂に害を与えたかを悟らない。彼らはキリストの血によって買い取られた者たちを傷つけることによって、キリストの心を傷つけたのである。わたしはこれらの改心していない公言者たちに次のように言うようにと命じられた。「深く掘り下げなさい。そしてあなたの基をイエス・キリストである岩の上に堅く据えなさい。わたしたちはより高尚な生活について語るだけでは十分でない。わたしたちの日常の一連の行動が、より高尚な生活が何を意味しているかについて他の人々に解説するものとならなければならない……」。

各個々人の将来の永遠の命は、言葉や公言にかかっているのではなく、真剣な働きにかかっているのである。わたしたちは信仰の創始者であり完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、勤勉のかぎりを尽くして心を守るために断固とした努力をする必要がある。わたしたちは手に負えない舌を見張る必要がある。わたしたちはイエスがなさったように、善を行う機会を見張る必要がある。福音の牧師たちよ、キリストを宣べ伝えなさい。このお方の天来の恵みをあなたの生活と思いに持ち込みなさい。誠実な者となり、いつも神のみ言葉の規律の下にいなさい。わたしたちは神の定められた方法で救われなければならない。わたしたちはこのお方の勧告により頼み、このお方の働きにおいて一致しなければならない。悔い改めた心はつねに敏感である。神の子であると公言する一人ひとりに、しっかりと建てられた品性は、いつでも神の原型（パターン）にしたがって建てられることを教えなさい。（手紙 78, 1907年3月5日バークレイ教会の教会員たちへ）

3月6日

戸を開きなさい

「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」（黙示録 3:20）

心から自尊心が空にされるとき、戸はキリストに向かって開かれる。なぜならあなたはこのお方の戸をたたく音を認識するからである。しかし主イエスを閉め出しているごみをあなたが取り除かない限り、このお方はお入りになることができない。なぜならこのお方が強引に入られることはないからである。

夜の幻でわたしは、心を尽くして主イエスを求め、信仰によってこのお方をつかむすべての者たちにこのお方は見出されるのだというはっきりとした証を担っていた。わたしは激しい熱心さをもってあなたに話していた。一致のために祈られたキリストの祈りに答えなさい。そして、サタンがあなたを迷いださせるために用いてきた疑いを取りのぞきなさい。敵を退けなさい。そうすれば主の御霊はあなたのために敵に対して旗印を掲げてくださるのである。……

魂の繁栄はキリストの贖罪の犠牲にかかっている。このお方はわたしたちのために、許しを獲得するためにこの世に来られたのである。わたしたちの最初の働きは、わたしたちがこの終わりの時代の危機のただ中でも忠実でまた誠実でいられるように―サタンの策略に一センチたりとも屈することなく守られるように―霊の祝福を求めて最も熱心に奮闘することである。足の不自由な者が道からはずれることがないように、その人の足のためにまっすぐな道を作ることはすべての者の義務である。わたしたちには無駄にする時間はない。魂の繁栄は、キリストがご自分を信じる者たちのうちに存在するようにと祈られた一致にかかっている。彼らはこのお方が御父と一つであるように、このお方と一つとなるべきである。互いに遠ざかることは神のご計画ではなく、狡猾な敵の計画である。

わたしたちは過去の経験を否定している者たち、そしてもっともらしい考案を通して、もしできるなら選民をも惑わす者たちを警戒しなければならない。天の宮廷におけるわたしたちの弁護者であられるお方は、この働きをしている者たちの欺きの策略のすべての詳細を良くご存じである。信仰から離れようとしている者たちは他の人々の確信を弱めようと働いており、彼らは何年もそのように働いてきた。わたしたちの警告は、わたしたちに関心を持っておられるお方から来る。なぜならこのお方はわたしたちの危険をごらんになり、このお方の真理に反対している者たちの共謀をよくご存じだからである。……

天の宮廷においてわたしたちの仲保者であられるお方は、ご自分の民をきよめられる。キリストはご自分の聖徒たちを完全にされる。（手紙 90、1906 年 3 月 6 日テネシー、グレーズビルにおいての議会に集まっていた兄弟方へ）

3月7日

一番上の窓を開きなさい

「主とそのみ力とを求めよ。つねにそのみ顔をたずねよ。」（歴代志上 16:11）

今こそ、まさしく今こそ、魂の窓を天に向かって開き、地上に向かって窓を閉じるわたしたちの好機である。今こそすべての教会員が、次のように言うべき時である。「わたしは自分の心をキリストとの交わりからそらすすべてのものに向かって閉じます、わたしは霊的な事柄を理解することができるように、自分の魂の窓を天に向かって開きます」と。

信者たちは聖霊の個人的な必要に関して、神と語る必要がある。神のみ言葉が彼らの確証とならなければならない。全天は自分の生活に義の太陽の輝かしい光線を受けるようにとわたしたちを招いている。もしわたしたちが信仰と望みと勇気を語るならば、わたしたちの魂は強められ、わたしたちの望みと勇気と信仰は増加するのである。義の太陽というこの大いなる賜物を求めよう。それはわたしたちの生活の中でそれが他の人々に輝き出ることができるためである。世にあってどのようにこのお方の働きをなすかを学ぶことができるように、主を求めよう。これによってわたしたちは成功する伝道者となり、希望に満ちた勇気ある経験をするようにと他の人々を助けることができるようになるのである。

主のためにわたしたちの奉仕において、小さな事柄を見過ごさないようにしよう。すべての人間は編むべき生活の織物がある。そして最終的に模様を完成し、完全なものとするためには、模様のすべての糸は、注意深く忠実に手を加えられなければならない。キリストの恵みはわたしたちが巧みに上手に編むことができるようにする。日毎にわたしたちは向上するために個人的に勤勉な努力を尽くすべきである。毎日わたしたちは弱い者を力づけ、落胆した者を元気づける働きにおいて、クリスチャンの知性を用いるべきである。大いなる試練がすべての魂に訪れることになる。そうであれば、わたしたちは働き、見張り、祈り、主を讃美しようではないか。これはわたしたちに最も尊い経験を与えるのである。熱心さと拒まれることのない信仰をもって主を求めることを怠ってきたために、多くの信者たちは多くのものを失ってきた。

単純で、へりくだった、励ますような方法で語られた言葉と、なされた働きは、他の人々の心の中に信仰を奮い起こす。主はまもなく来られる。そして、生来の心は日毎に改心させられなければならない。わたしたちはキリストの柔和のうちに言葉を語ることを学ばなくてはならない。わたしたちの働きとわたしたちの精神は、わたしたちが主に仕えていることを証言しなければならない。（手紙 54、1909 年 3 月 7 日、総会の総理、S. N. ヘスケル長老へ）

愛は何をなすか

「わたしは生けるかぎりは主をほめたたえ、ながらえる間は、わが神をほめうたおう。」（詩篇 146:2）

半世紀にわたって、わたしは主の使命者となってきた。そして、わたしの命が続く限り、神がご自分の民のためにわたしにお与えになるメッセージを担い続けるであろう。わたしは自分自身には何の栄光も帰さない。わたしが若いときに、主はご自分の民に励ましと警告と譴責の証を伝えるために、わたしをご自分の使命者となさった。60 年間、わたしは天の御使たちとの交わりの中におり、たえず神性な事柄に関して学んできた。また、神が魂を彼らの方法という誤謬から神の光における光へと導き入れるためにたえず働いておられる方法に関して学んできた。……

わたしは神を愛する。わたしはイエス・キリスト、すなわち神の御子を愛する。そして、神の子であると主張するすべての魂に強い関心を感じる。わたしは主がわたしの命を保たれる限り忠実な管理人となる決心をしている。わたしは失望することも、落胆させられることもない。

しかし何ヶ月もの間、サタンの詭弁〔汎神論の教え。教会への証 8 巻 255 ～ 304 参照〕を受け入れ、それを他の人々に伝えて、この終わりの時代のための福音のメッセージや神がわたしにさせるためにお与えになった特別な働きに対する確信を打ち砕こうとありとあらゆる解釈を様々な方法でほどこしてきた人々のために、わたしの魂は激しい苦悩を味わってきた。わたしは主がわたしにこの働きをお与えになったことを知っており、わたしがしてきたことに対して何の言い訳もない。わたしは自分の経験の中でたえず、神の奇跡的な支えの力の証拠を、主に献身したわが身と魂に受けてきたのである。わたしは自分自身のものではない。わたしは値をもって買い取られた。そしてわたしにはわたしのために主が働いておられるというこれほどまでの確証があるのだから、このお方の豊かな恵みを認めずにはいられない。わたしは主を愛する。わたしは救い主を愛する、そしてわたしの命は完全に神の御手の中にある。このお方がわたしを支えてくださる限り、わたしは断固とした証を担うのである。

いったいわたしはつぶやくべきであろうか。これまで主はあまりにも数多くわたしを病から起こされ、おどろくばかりにわたしを支えてこられたので、わたしは決して疑うことができない。わたしには数多くこのお方の特別な祝福の間違いようのない証拠があるので、どうしても疑うことができない。このお方はご自分の真理を、多くの人々の前で話す自由をわたしに与えてくださる。（手紙 86、1906 年 3 月 8 日、南部連合総会の総理 G．I．バトラー長老へ）

3月9日

指示に従う

「わたしたちの先祖は荒野でマナを食べました。それは『天よりのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです。」（ヨハネ 6:31）

イスラエル人たちの教育には彼らのすべての生活習慣が含まれていた。彼らの幸福にかかわるすべてのことは神の配慮の対象であり、神の律法の範囲内にあった。主が彼らに特別な計画を備えてくださったのは、このお方が彼らをご自分の代表者にしようと望まれたからであった。彼らはその食事に関して注意深い規制の下に置かれていた。肉の使用はほとんど完全に禁止されていた。民は聖なるものとなるべきであって、主は肉の使用は霊的生命における彼らの向上にとって妨げとなることを知っておられた。あわれみの奇跡によって主は彼らを天のパンをもって養われた。彼らに供給された食物は彼らにとって、肉体的、精神的、また道徳的力を促進する性質のものであり……彼らが反駁できないほど、神の彼らに対する選択の知恵が立証されたのであった。彼らの荒野の生活の困難にもかかわらず、彼らのすべての部族の中に一人として虚弱者はいなかった。

もしイスラエル人たちにエジプトにいた頃に慣れ親しんでいた食事が与えられていたら、彼らはこの世が今日示しているような御（ぎょ）しがたい精神を示していたことであろう。この時代の男女の食事の中には、主がイスラエルの子らに許されなかったようなものが多く含まれている。今日の人類家族は、もし神が彼らにエジプトの食物を食べ、その習慣と慣習に従うことを許されていたらイスラエルの子らがなっていたはずの実例である。

イスラエルの荒野の生活の歴史は、時の終わりまで神のイスラエルの益となるように記述されたのであった。放浪者たちが行ったり来たりした全道中の際の、また飢えや渇きや疲労にさらされた際の、また彼らの救済のためにこのお方の力が著しく現された際の神の彼らに対する取り扱いの記録は、この時代における神の民に対する警告と教訓に満ちている。ヘブル人たちの多様な経験は、彼らに約束されたカナンの家郷のための準備学校であった。神はこの時代のご自分の民が、古代のイスラエルが経験した試練を、へりくだった心と教えを受けることのできる精神をもって振り返るように望まれる。それは彼らが天のカナンのために準備するにあたり、教えを受けることができるためである。（手紙 44, 1903 年 3 月 9 日、シドニー療養所の経営者 J.A. バーデン長老へ）

3月10日

義の標準

「わたしたちの主イエスを、死人の中から引き上げられた平和の神が、イエス・キリストによって、みこころにかなうことをわたしたちにして下さり、あなたがたが御旨を行うために、すべての良きものを備えて下さるようにこい願う。」（ヘブル13:20, 21）

あなたがたが礼拝のために、主を求めて共に集まるとき、ご要求が全く平等で公正なお方に誉れを帰すことがあなた方のただ一つの目標となるべきである。このお方のみ言葉の中にあなたがたに宣言されたこのお方のみ心は厳密に実行されなければならない。このお方の公言する民の生活に表された義の標準が、彼らを際立たせるべきである。わたしたちはあらゆる意味において、つねにクリスチャンであることを求め、神の栄光だけに目を留めて生きるべきである。

次の言葉がわたしたちの教師であられるお方によって語られた。「あなた方は神の支配下にいなければならない。どのように調和するか学びなさい。兄弟として愛し、憐れみ深く、礼儀正しくありなさい。神の戒めは公正で平等なものである。このお方の働き人たちすべては神との同労者として尊敬されるべきである。

働きの様々な関心ごとが慎重に積み上げられていくべきである。今後、責任は急速に増加する。神の御心、義の完全な基準があなたの働きの中に表されるべきである。あなたは自分の神と日毎にたびたび交わり、『静まって、わたしこそ神であることを知れ』と言われる声に耳を傾けなさい（詩篇46:10）。あなたの義務がメッセージの進展にともなって増加するとき、誘惑も増加するのである。働きの重大さが魂に押しせまってくるとき、あなたの心を神のみ前にへりくだらせなさい。働きにおけるあなたの役割を忠実に果たし、神のみ前にあってあなた個人の責任のうちに忠実に立ちなさい。神は人をかたより見るお方ではない。義を行う者は、義人である。ただの公言は何の価値もなく、知識は正しく用いられるときにのみ価値のあるものである」。

わたしたちの教師は続けて言われる。「つぶやいてはならない。不平を言ってはならない。むさぼってはならない。口論してはならない。あなたが悩まされるとき、偉大な医者に目を向けなさい。あなたは喜び、主のみ前に自分自身をへりくだらせる必要がある。利己的な精神をほしいままにすることによって、人は視野が狭くなり、先を見通せなくなる。そして彼らは原因から結果を読みとることに失敗するのである。主のみ言葉が、万事においてあなたの案内者となるべきである。『しかし、主はその聖なる宮にいます、全地はそのみ前に沈黙せよ』（ハバクク2:20）」……

主は今ご自分の働きのために選ばれた者たちに、キリストのみ事業の進展のために一致団結して立つようにと召しておられる。（手紙112, 1907年3月10日、ナッシュビル療養所と南部連合総会の指導者たちへ）

3月11日

魅力的なクリスチャン

「兄弟の愛をもって互にいつくしみ、進んで互に尊敬し合いなさい。」（ローマ12:10）

わたしたちは自分たちを他の人々が従うべき基準とすることはできない。わたしたちは自分たちとかかわりのあるすべての人の幸福を促進することに、心の優しさと全魂を傾けた熱心さとを表すのである。わたしたちには、自分たちの計画から自己を取り除くことにおいて、またわたしたちがとり囲まれているのと同様な状況においてキリストが行動されるはずのとおりに自分たちも行動するという個人的な責任を自覚することにおいて、なすべき義務がある。そのときわたしたちは、神が栄光を受けられるような方法で、他の者たちの思いに感銘を与えることになるのである。

キリストに従う者として、わたしたちは自分たちが交わりを持っているすべての者たちの思いに、自分たちの公言する宗教についてもっとも好ましい印象を与えようと、また高尚な思いを吹き込もうと求めるべきである。わたしたちの感化によって、現世と永遠を通じて影響される者もいるのである。……

もしわたしたちが他の者たちに教えたいのなら、わたしたち自身が日毎にキリストから教訓を学ばなくてはならない。神の働きの神聖さを理解しない者たちがいる。最も能力のない者たち、最も軽率な者たち、また怠惰な若者でさえも、特別にわたしたちの祈りに満ちた心遣いを非常に必要としている。わたしたちは思慮がなく軽率に思える者たちをどのように助けるかを知るために特別な知恵を必要としている。ダビデは言った「あなたの助け（優しさ、英訳）は、わたしを大いなる者とされた」（サムエル記下22:36、詩篇18:35）。

他の人々を助けることに自ら専心するとき、わたしたちは最も尊い勝利を得ることができる。わたしたちは不屈の熱心さ、真剣な忠実、自己否定、そして忍耐をもって、成長する必要のある者たちを励ます働きに献身しなければならない。やさしい、励ましの言葉は驚くべきことをなす。もしあら捜しをすることなく、また絶えず小言を言うことなしに、たえず快活な努力が自分たちのためになされるならば、向上の余地があることを示す者たちが多くいるのである。……

わたしたちは無能な者や過ちを犯す者たちを、知性と神聖な純潔へと回復させることにおいて、主イエスと協力すべきである。わたしたちは、神の練磨を必要としている者たちの救いに対するたゆまない根気よい関心を示すように、神から求められている。……

神はそれを求める者たちに知恵を差し控えることはなさらない。このお方は恵みを人にお与えになるが、それは、今度はその人が他の困っている魂にそれを分け与えることができるためである。（手紙94, 1905年3月11日、慈善家の再臨信徒未亡人であるジョセフィン・ゴッツィアン姉妹へ）

3月12日

個人的で実際的な敬虔

「あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていだいている望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか、……あなたがたが知るに至るように、と祈っている。」（エペソ 1:18, 19）

あなたの理解力の目が啓発され、それによってあなたの心に影響が及ぼされるようにしなさい。またそれによって魂の宮が一度もメッセージを聞いたことのない滅び行く魂に対する神の憐れみと同情に満たされて、彼らのために実際的な努力をなすよう呼び覚まされるようにしなさい。わたしたちの目がこのように周囲の貧窮した畑の欠乏に対して開かれるとき、わたしたちは自分たちの想像上の必要をくるんでしまうよう導かれるのである。宣教の分野におけるわたしたちの働きは、より広範囲にわたるものでなければならない。自己否定と自己犠牲は、かつてなかったほど実践されなければならない。

わたしたちが自分の魂をすべての力の源につなぐのは、神のみ事業の必要を供給するために活発に働くことによってである。しかしだれ一人として、真理を信奉する者たちが受けるよりももっと分け与えることに従事するのだという見解を抱くことがないようにしなさい。あなたの霊的支出は霊的収入を超える必要はない。一方は他方に欠かせないのである。一方をなおざりにすれば、他方がなおざりにされるのである。どの時代においても、最も関心を持っていた活発な神の僕たちとは、最も生き生きとした実際的な敬虔を持った者たちであった。彼らが他の人々に分け与えることができるように、彼らの霊的必要は決して衰えることのない力の源から供給された。わたしたちが目を神の栄光だけに向けるとき、わたしたちは個人的な敬虔を培うのである。

わたしたちの宗教活動は、表面が広がるにつれて、深さが減じる危険性がある。わたしたちの働き人たちが、人間の器や、施設、また働きのための大がかりな準備に頼り、神にある自分たちの堅固な信仰を失い、外面的な繁栄を見せびらかしながら、心における働きはなおざりにする危険がある。慈善活動はどんなに広範囲に及んでいようとも、個人的な敬虔の代わりにすることはできないのである。危険は四方八方にある。だから、わたしたちはたえず神により頼んでいる必要がある。それは神の聖霊がわたしたちの心を清く、無私で、上からの命令をすばやく聞くことができるようにして下さるためである。……

神のみ働きの中に無意味なものはなく、働きのなされる量よりも忠実さこそが各自の報いを決めるのである。一タラントしか持ってない者の働きは、神の御目には、五タラントを持っている者と同じく価値があるのである。（原稿 25, 1899 年 3 月 12 日「神の働きにおいての忠実」）

3月13日

道を照らす

「すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中にあって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。」（ピリピ 2:14, 15）

クリスチャンは命の言葉を差し出し、光を与える者とならなければならない。彼らは最高の敬虔さに到達するようにと使徒に熱心に勧められている。世は説教者が教えることによってではなく、教会が何に生きるかによって確信させられるのである。天への道が暗いか明るいかは、教会がはっきりした強い光を放つか、あるいは疑い深くてゆらめく光を放つかに正比例している。講壇の説教者は福音の理論を告げるが、教会の実際的な敬虔は真理の力を実証し、その真の価値を示すのである。

福音とは、人間の品性に大いなる変化をもたらすように定められた実際的な真理の体系である。もしそれが生活に、習慣に、慣習に変化をもたらさないのなら、それを信じると公言する者にとってそれは真理ではないのである。人は真理によって聖化されなければならない。そしてイエスは「あなたの御言は真理であります」と言われた（ヨハネ 17:17）。神の真理が人をその堕落から、またその不節制や放蕩の習慣から引き上げず、また神のみかたちを反映する者としない限り、彼は失われているのである。

わが兄弟姉妹方、あなたがたの生活はこれまでとは違った型に従ったものとならなければならない。そして、あなた方が世の光であり、み言葉の光を差し出していることを天と地の前で実証したものとならなければならない。教会員の敬虔さが、福音についての世の標準となるのである。そうであるなら、セント・クレアにいるすべての教会員は自分の働きを立派に果たそう。なぜならあなたがたは、神の同労者だからである。あなたがたの模範を、大いなる型（パターン）に調和させよう。

すべてのことをつぶやかず争わないで、不平を言わず、ねたむことをしないで行いなさい。一タラントの人が神に対して持ちだした昔の誹謗（ひぼう）を繰り返したり、信じたりしてはならない。「あなたはきびしい方で、おあずけにならなかったものを取りたて、おまきにならなかったものを刈る人なので、おそろしかったのです」（ルカ 19:21）。この譬えは、宗教を公言しながら、できる限り自分たちの敬虔を低い標準に合わせて破滅から逃れようとする多くの人々を象徴している。

あなたは勤勉によく祈って聖書を学ぶ生徒となる必要がある。そのときあなたは高められた標準を認め、それに到達することを目標とするようになる。（手紙 14, 1885 年 3 月 13 日、ネバダ、セント・クレアにある教会へ）

3月14日

相続権の祝福

「わたしはあなたを教え、あなたの行くべき道を示し、わたしの目をあなたにとめて、さとすであろう。」（詩篇 32:8）

総会の責任者やそのほかのどんな役員にとっても自分自身の取るべき行動指針に関してみ言葉から神の御心を知ることが特権であるのとまったく同様に、個々の教会のメンバー一人ひとりにとってもこれは特権である。主は、聖霊に教えられ、啓発され、働いていただくすべての者たちに見出されることをお望みになる。神はご自分の民と交わる用意ができておられる。……

個人個人だれでも、真剣な祈りによって神のみ言葉を自分自身で知り、そしてそれを行うことを求めなければならない。日毎に自分の信頼を肉の腕にではなく神に置くことにおいてのみ、どの魂も「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります」というキリストの祈りに答えるために不可欠な経験を得ることができる（ヨハネ 17:3）。これは新たな年を始めたすべての魂に与えられる教訓である。この地上におけるあなたのすべての懸念、またあらゆる心配や不安のうちにあるとき、主を待ち望みなさい。責任ある地位にいるからといって、あなたの信頼を王たちや人の子らにおいてはならない。主はあなたの心をご自分と結ばれたのである。もしあなたがこのお方を愛し、このお方の奉仕に受け入れられているなら、あなたのすべての重荷を公私共に、主の許にたずさえてきて、このお方を待ち望みなさい。そのときあなたは個人的な経験を得、またこのお方のご臨在と、このお方が知恵と指示を求めるあなたの祈りにいつでも答える用意ができておられることを確信するようになる。それらは、主はあなたが困惑するときこころよくあなたを救ってくださるということをあなたに保証し、確信させるのである。……

このお方は「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」と言われたキリストのみ言葉の中に与えられた特権のゆえに、日々あなたが喜び、このお方を讃美するようにと望んでおられる（マタイ 11:28）。……主の前にあなたの問題をすべてさらけだしなさい。そうすればあなたの心配事や試練がどんなであろうとも、あなたの精神は耐え忍ぶための備えができる。あなた自身を当惑と困難から解く道があなたの前に開かれる。あなたはどの進路をたどるべきか知るために、隣町あるいは地の果てまで行く必要はない。あなたのいと近き助けとして、神に信頼しなさい。このお方は最善をご存知であるお方として万事を統べ治められるお方である。（原稿 15, 1897 年 3 月 14 日「個人的経験が必要である」）

3月15日

礼儀正しいクリスチャン

「互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。」（エペソ 4:32）

わたしたちは自分の心の中に愛を抱く必要がある。わたしたちはすぐに自分の兄弟たちの悪を考えるようであってはならない。わたしたちは彼らが何をするか、または彼らがなにを言うかについて解釈することを最小限にすべきである。わたしたちは聖書的クリスチャンにならなければならない。「あなたがたは、真理に従うことによって、たましいをきよめ、偽りのない兄弟愛をいだくに至ったのであるから、互に心から熱く愛し合いなさい」（ペテロ第一 1:22）。

わたしたちは自分自身の救いについて無頓着であってはならない。「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい」（コリント第二 13:5）。

わたしたちは無関心に時を過ごしてはならない。わたしたちは自分の思いと感情、また自分の気質、目的、言葉、また行いの性質を調べなければならない。わたしたちはたえず、また首尾よく、自分たちの罪深い堕落に対して闘っていない限り、安全ではない。わたしたちは自分がクリスチャンの聖潔の模範であるかどうか、わたしたちが信仰のうちにいるかどうかを考えなければならない。わたしたちが自分の心を神のみ言葉の光のうちに吟味しながら勤勉に調べないかぎり、自己愛が自分自身について思うべき見解よりはるかにすぐれた見解を持つようにとわたしたちを駆り立てるのである。わたしたちは他人を正すのに熱心になるあまり、自分の魂をなおざりにしてしまうようなことがあってはならない。わたしたちは自分の兄弟たちに対してそれほど熱心になる必要はないし、この熱心さのゆえに自分自身のためになされる必要のある働きをなおざりにする必要はないのである。他の者の間違いによって、少しでもわたしたちの問題が正しくなるわけではない。わたしたち自身のためになされるべき個人的働きがある。そしてそれはわたしたちが決してなおざりにしてはならないのである。……

もしわたしたちが神の憐れみと愛で満たされているなら、それに相応した結果が他の者たちに表されるのである。わたしたちは誇るものは何も持っていない。すべては慈悲深い救い主の賜物である。わたしたちは自分自身の魂に勤勉に注意を払わなければならない。わたしたちは謙遜のうちに歩まなければならない。わたしたちは戦いの衣ではなくて、平安と義の衣を望んでいる。主がわたしたちに、どのようにしてこのお方のくびきを負い、このお方の荷を負うかを教えてくださるように。この事業とこの働きにおけるすべての事柄は、親切で友好的な精神によって成し遂げることができるのである。わたしたちはいつも礼儀正しくあることができるし、そのようになりすぎることを恐れることはない。わたしたちはすべての人々に親切を示すことを実践しなければならない。（手紙 11, 1880 年 3 月 15 日、世界総会の役員へ）

3月16日

勝利の保証

「キリストは、わたしたちの父なる神の御旨に従い、わたしたちを今の悪の世から救い出そうとして、ご自身をわたしたちの罪のためにささげられたのである。」（ガラテヤ 1:4）

ご自分の命を世の命のためにお与えになることによって、キリストは罪が造った淵に橋をかけられ、罪にのろわれた地を天の宇宙の一部としてつないでくださった。神はこの世をご自分の恵みの大いなる働きの舞台にするために選ばれた。その住民の反逆のゆえに有罪の判決が地の上に下ろうとしているとき、また神の律法の違反のゆえに怒りの雲がつのっていたときに、神秘的な声が天において聞かれた、「見よ、わたしはまいります。……わが神よ、わたしはみこころを行う」ために（詩篇 40:7, 8）。わたしたちの身代わりであり、保証人であられるお方は、ご自分が永遠の命という巨額ではかり知ることのできない寄贈物を携えて来られたことを宣言しながら、天から来られた。許しが神の律法への自分たちの忠誠をお返しするすべての者たちに提供されている。しかし「主はこう仰せられる」という言葉を受け入れることを拒む者たちがいる。彼らはこのお方の律法を敬わず、尊ぶことをしない。彼らは「主はこう仰せられる」という言葉に反対して厳しい人間の法律を作り、教えと模範とによって男と女と子供たちを罪へと導くのである。彼らは人間の法律を神の律法に勝って高める。しかし罪の宣告と神の怒りは不従順な者たちの上に下ろうとしている。神の正義の雲が増し加わっている。滅びの物質は長い間積まれてきた。そしていまだに背教、反逆、神に対する背信が増加している。このお方の戒めを守る神の残りの民は、ダニエルによって語られた言葉を理解する、「多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう。しかし、悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者は悟るでしょう」（ダニエル 12:10）。

サタンはこの世を自分の領土と見なした。ここに彼の座があり、彼は神の戒めを守ることを拒み、「主はこう仰せられる」という明白な言葉を拒否するすべての者たちの忠誠を自分の者として保有している。彼らは敵の旗の下に立っている。なぜなら、この世には二つのグループしかないからである。すべての者は従順の旗かあるいは不従順の旗のいずれかの下にいる。

イエスは今、ご自分のメッセージを堕落した世に送っておられる。このお方は見たところ望みのない材料、すなわちサタンが用いて働いてきた人々を喜んで受け入れ、彼らをご自分の恵みの対象とされる。このお方は不服従な者たちに下る怒りから彼らを救われることを喜ばれるのである。（原稿 41, 1898 年 3 月 16 日「このお方の愛のはかり」）

3月17日

タラントは使うためにある

「あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきである。」（ペテロ第一4:10）

神の賜物を与えられた者たちが魂のうちにキリストの愛の熱心さを持っていなかったゆえに、どれほど多く誤用されてきたことであろう。各自が自分の最善を尽くすことが大いに必要とされている。もし自分たちで必死に努力し、自分たちの能力にまかされていたならば、彼らに与えられたタラントを賢く使ったはずの者たちがいる。しかし彼らは財産を所有するようになり、自分たちのタラントを培い、自分の持っているものを伝達することによって自分に可能なことをすべてやろうとする動機を失った。豊かな財産が彼らを自分の執事職を忠実に果たせない役立たずにしてしまったのである。

クリスチャンであると公言するすべての者たちは、神の所有物を賢く扱うようにしよう。神はあなたに貸されたお金と、あなたに与えられた霊的利益の財産明細書をつけておられる。あなたは管理人として注意深い財産明細書をつけないだろうか。あなたは神があなたの責任に任せられたすべてのものを、経済的に使っているかどうか、あるいは主の所有物を見せびらかすために利己的な出費によって浪費しているかどうか吟味しないだろうか。不必要に使われているそれらすべては、天に宝として蓄えることができたのである。

神はご自分の管理人に金銭以上のものをお与えになる。分け与えるというあなたのタラントは賜物である。あなたの言葉や、あなたの優しい同情のうちに、あなたは神の賜物から何を伝達しているであろうか。あなたのお金が敵の隊列に流れることを許し、あなたが喜ばせたいと努めている者たちを滅ぼさせているのであろうか。またさらに、真理の知識はタラントである。暗闇の中には、あなたからの真実で忠実な言葉によって啓発されるかもしれない多くの魂がいる。同情を渇望し、神から離れて滅びつつある心がある。あなたの同情が彼らを助けることができるのである。……

すべてのクリスチャンがなすべき最初の働きは、最も真剣な祈りによって聖書を研究することである。それは、彼らが愛によって働き、利己心というすべての糸から魂を清める信仰をもつためである。もし真理が魂に受け入れられるなら、それはすべての力が神の御心に服従させられるまで、よいパン種として働く。そのとき、太陽が輝かずにはおれないように、あなたも輝かずにはおれないのである。（原稿 42, 1898 年 3 月 17 日「すべての者に働きを」）

3月18日

罪の値札

「神のなされることは皆その時にかなって美しい。」（伝道の書 3:11）

このお方〔神〕はわたしたちが、自分たちの世界にある自然の美しさを見ることを望まれる。このお方はわたしたちにこれを見るように、またこれらが人に対する神の愛の表現であることを悟るようにわたしたちの子供たちを教育することを望まれる。ここに、あなたがた両親に、あなたの心を和らげ鎮めるように語りかけている声がある。天と地を造られたお方、世界を緑のビロードのカーペットで覆われたお方、わたしたちにそびえ立つ木々を与え、それらを緑の葉で覆われたお方をつねにあなたがたの前に置きなさい。しかし人間はこれらすべてのものを造られた神への讃美を語る代わりに、人間が製造したものについて語り、非常に美しい自分たちの家と、豪華に飾りつけられた衣服について考える。これらすべてには時間とお金がかかるが、それは魂がかかっていることを意味しているのである。神はこのお方の栄光のために用いるようにと、わたしたちに金銭をお与えになった。ああ、幕を引くことができるのなら。わたしたちが人知をはるかに超えた神の愛を見ることさえできたら。わたしはとてもそれに触れることはできない。わたしは控えられている栄光についてあえて述べることはできない。だれのためだろう。テストされ試みられてきた者、神の栄光だけに目を向けている者、そして天の真理に忠実を尽くすすべての魂のためである。世の誉れ、世の栄光、世の賞賛はわたしたちにとって何の価値もないのである。

自分の個人的救い主としてイエス・キリストを信じるすべての魂は、そのときどうなるだろう。そのとき愛が神の心から彼の心に注がれるのである。その心はそのときどうするのだろう。それは神に仕え、その戒めを守るようになる。さもなければ、それは罪を犯したあとのアダムとエバのようになって見出されることになる。わたしたちはそのようにする余裕はない。わたしたちは罪を犯す余裕はない。罪は高い取引である。……

わたしたちは永遠の都の門に入ることを望んでいる。真珠の門が開かれるとき、わたしたちは歓迎の声を聞くことを望んでいる。わたしたちは額に不死の栄光の冠が置かれることを望んでいる。わたしたちは地上のどんな織物加工屋も白くすることができないほど白い、天の織機で織られた衣を望んでいる。わたしたちは麗しく着飾った王を見、このお方の比類のない魅力を仰ぐことを望んでいる。……わたしはあなたに自分の宝を天に積むようにと懇願する。清いものと汚れたものとの見分けをつけることができなくなるほどあなたの思いを混乱させるすべてのものを取り除きなさい。（原稿 20, 1894 年 3 月 18 日「わたしたちのみ父のご自分の子供たちへの配慮」）

3月19日

選ぶことと行うこと

「さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。」（ペテロ第一 2:24）

このお方〔キリスト〕が十字架上でご自分の体に刑罰を負ってくださったがゆえに、人には第二の恩恵期間があるのである。人は望むなら、この忠誠をお返しすることができる。しかし、もし彼が神の命令に服従することを拒み、神が送られる警告とメッセージを拒絶し、それよりも欺瞞者の言葉を反響させる人々によって語られる詭弁の言葉を選ぶなら、彼は故意に無知なのであり、神の責めは彼の上にあるのである。彼は不服従を選ぶ。なぜなら服従とは十字架をかかげ、自己犠牲を実践し、従順の道をキリストに従うことを意味しているからである。

生まれつきの思いは快楽と自己満足を好む。そして、これをあふれるほど作り出して、男も女もすっかり興奮させ、彼らに「わたしの魂はどうなっているだろうか」という質問を考える時間を与えないようにさせるのがサタンの策略なのである。快楽への愛着は感染性である。これに陥れば、思いは絶え間なく娯楽を求めて、あちらからこちらへと走り回るのである。……

栄光の富を楽しむ能力は、これらの富に対してわたしたちが持っている願いに比例して発達する。もしこの世の生涯において神と天の事柄を感謝する思いがないとすれば、いったいどのようにしてそれが発達するというのであろうか。世の要求と心づかいがわたしたちのすべての時間と注目をすっかり奪ってしまうなら、わたしたちの霊的力は弱くなり、死んでしまう。なぜなら、それが働かせられないからである。すっかり地上の事柄に没頭している思いでは、天からの光が差し込む入り口はすべてふさがれている。神の変化させる恵みが思いと品性において感じられないのである。活発な敬虔のうちに用いられるべきタラントは無視され、なおざりにされている。そうであれば「さあ、おいでください。もう準備ができましたから」との招待が聞こえたときに（ルカ 14:17）、どうして応答することができるであろう。人が不忠実で、感謝せず、汚れた者であれば、いったいどうして「良い忠実な僕よ、よくやった」という賞賛を受けることができようか。彼は神の明白なご要求を無視するように、宗教的事柄を嫌うようにと思いを訓練してきた。彼は地上のものを天のものよりも愛するのである。

神の戒めへの従順はわたしたちの名前を小羊の命の書に書き入れる。なぜなら、「わたしたちはキリストにあずかる者となる」からである（ヘブル 3:14）。（原稿 28, 1899 年 3 月 19 日、「わたしが律法や預言者を廃するためにきたと思ってはならない。」）

3月20日

破滅の治療

「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。」（ガラテヤ6:14）

カルバリーの十字架を眺めなさい。それは天父の限りない愛、計り知れない憐れみの永続的な契約である。ああ、すべての者が悔い改め、初めのわざをするように。教会がこれをなすとき、彼らは神を最高に愛し、自分を愛するように自分の隣人を愛するのである。エフライムはユダをねたまず、ユダはエフライムを悩ますことはない。その時、不和は癒され、争いの荒々しい音はイスラエルの境界線のうちではもはや聞かれなくなる。神から惜しみなく与えられている恵みを通して、すべての者はご自分が御父と一つであられるように、弟子たちが一つになるようにとのキリストの祈りに答えることを求めるのである。平安、愛、憐れみと寛容は魂の不動の原則となる。キリストの愛がすべての舌の主題となり、まことの証人が「しかし、あなたに対して責むべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった」と言われることはなくなるのである（黙示録2:4）。神の民はキリストのうちに宿るようになり、イエスの愛が表され、一つの霊がすべての心を活気づけ、すべての者をキリストのみかたちに再生し、新たになし、すべての心を一様に形づくる。まことのぶどうの木の生きた枝として、すべての者は生ける頭であられるキリストに結合するのである。キリストはすべての心に宿られ、導き、慰め、聖化し、世にイエスに従う者たちの一致を示して、このようにして天の信任状が残りの教会に与えられたことの証を担うのである。キリストの教会の調和のうちに、神がご自分のひとり子を世に送られたことが証明されるのである。……

行いがわたしたちに天国に入る資格を得させるのではない。信じるすべての者にとって、すでになされた大いなる供え物は十分なのである。キリストの愛は信者を新しい命によって活気づける。命の源の水から飲む者は、王国の新しいぶどう酒によって満たされる。キリストを信じる信仰という手段によって、正しい精神と動機が信者を動かす。そして自分の信仰の創始者であり、完成者であられるイエスを眺める者からは、あらゆる善と天来の思いとが出てくるようになる。キリストを見上げなさい、人を見てはならない。神は快く忍耐をもってあなたの弱さを忍び、それらを許し、癒してくださるあなたの天父なのである。（レビュー・アンド・ヘラルド 1894年3月20日）

3月21日

悔恨、告白、協力

「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。」（ヨハネ第一 1:9）

敵の誘惑は来る。しかし、わたしたちは誠実という最も厳格な原則を一点でも譲歩することによって、彼をすべての防壁を破壊するのに有利にするのであろうか。もしわたしたちが少しでも譲歩するならば、ついには神のみ言葉の明白な記述に真っ向から反対し、サタンの思いと意志に従うまで、彼は次々と誘惑をもたらすであろう。サタンと悪天使たちである彼の同盟者たちは、インマヌエルの君の血染めの旗の下に入隊した魂をどの手段によって誘惑し、破滅させることができるかを見ようと、つねに抜け目がない。あなたはしばらくの間はよく走り、主の恵み深きことを味わい知ったが、あなたが罪に陥ったとき、あなたは暗闇のうちに歩んだ。あなたが誘惑に屈服したとき、あなたは信仰の創始者であり完成者であられるイエスを仰ぎ見ることを止めてしまったに違いない。しかし、あなたの罪を告白してから、神のみ言葉は失望させることがないばかりか、約束された方は真実なお方であるということを信じなさい。自分の罪を告白するのがあなたの義務であるのと同様に、神がご自分の言葉を果たされ、あなたの罪を許されるということを信じることは、あなたの義務なのである。あなたは神を信じる信仰を働かせ、このお方をそのみ言葉のうちに約束された通りを厳密に行い、あなたのすべての罪過を許されるお方として信じなければならない。

わたしたちはどのようにして、主が確かにわたしたちの罪を許される贖い主であられることを知り、またこのお方のうちにあるわたしたちのための祝福、恵み、愛なるものを試すことができるであろうか。ああ、わたしたちは悔いた従順な精神をもって、このお方のみ言葉を絶対的に信じなければならない。悲しみにくれ、つねに悔い改め、絶え間ない罪の宣告の雲の下にいる必要はない。神のみ言葉を信じ、イエスを仰ぎ見つつ、このお方の徳と憐れみに宿りなさい。そうすれば心のうちに、悪に対する絶対的憎悪が創造されるようになる。あなたは義を飢え渇く者たちの中にいるようになる。しかし、ますます近くイエスを識別すればするほど、ますますはっきりと自分自身の品性の欠陥を悟るようになるのである。

わたしたちが自分自身の欠点を見るとき、それらをイエスに告白し、魂の真の悔恨をもってすべての悪を克服するために聖霊の神の力と協力しよう。もし、わたしたちが自分の罪を告白するなら、わたしたちはそれらが許されたことを信じなければならない。なぜなら約束ははっきりしているからである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1912 年 3 月 21 日）

3月22日

恩恵期間と完全

「奉仕する者は、神から賜わる力による者にふさわしく奉仕すべきである。それは、すべてのことにおいてイエス・キリストによって、神があがめられるためである。栄光と力とが世々限りなく、彼にあるように、アァメン。」（ペテロ第一 4:11）

人が所有している多種の能力―魂、体、霊は、それらが可能な限り最高の卓越さに到達するように教育され訓練されるようにと、神から彼らに与えられたものである。人間の代理は神のご目的と協力しなければならない。そうすることにおいて人は神との同労者と宣言されるのである。神がわたしたちに賜ったすべての機能、すべての属性は、このお方のみ名の栄光のために用いられるべきである。人は人間のうちに神の道徳的みかたちを回復するために、キリストと協力しなければならない。キリストが人をその同胞の祝福となるためにお用いになることができるのは、キリストのくびきを負い、キリストの柔和とへりくだりを学ぶことによってである。

まずキリストに教えられ、そして自分自身の思いと魂を防御してから、人は自分の思いを清く高尚なものへと高め、また言葉と模範を通して彼の同胞の魂のうちに神に対する愛情と感謝を呼び覚ますことによって聖なる目的に仕えるのである。そうするとき、彼は神との同労者なのである。彼は自分に委ねられた賜物の一つでも、自分を高め、人の誉れを得るために用いるべきではない。そうではなく、神を高め、思いを鼓舞するために用いるべきである。すなわち、自分自身にどんな栄光をもたらすことができるかではなく、どのようにして自分が同胞のための祝福であることを示すことができるか、またどのようにして魂を引き寄せ、天の事柄を熟考させるのに最も成功を収める器となれるかということを考えるべきである。彼は他の人々にキリストのみ足の跡を踏むということを、言葉と行動によって教えなければならない。そのとき、彼自身の思いはよく均整の取れたものとなり、彼の賜物は、神の偉大なご計画をあらゆる可能な方法によって助けるために用いられるべき神の賜物として正しく認識されるのである。神の偉大なご計画における神との調和した行動によって、彼は自分に定められた場所を占めるのである。彼は自分に与えられた神の恵みを通して、キリストのご品性の完成へと自らを引き戻すのである。神の恵みを通して高められ、彼は自分の品性の変化によって、彼の同胞を教訓と模範によって高める準備ができている。

神のすべての賜物は消費するだけではなく、産み出すために働かされなければならない。どのような場合においても、この働きは、自己中心的なものとなったり、あるいは彼の同労の働き人を閉め出す排他的なものとなったりすることはできない。……

この恩恵期間の命は、救われるすべての者たちの品性となるべきこの完全へと、人を連れ戻すために与えられている。神の律法は、このお方のご品性の反映である。（手紙 46, 1900 年 3 月 22 日オーストラリヤの信者、デービッド・スティードへ）

3月23日

このお方の憂慮を見よ

「悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。」（エペソ6:11）

嵐の時がわたしたちの前にある。地は堕落しているが、ますます堕落するようになる。しかし、あなたはキリストを完全に信頼することができる。横領による財産家たちの暴力、犯罪、権利はあっても、宇宙を治める王なる神が存在しておられるのである。わたしたちはこのお方の子供であり、気紛れな運命の支配下にあるのではない。わたしたちには、しかり、あなたには、キリストによって語られた励ましのみ言葉を読むとき、望みの泉を新たにする神聖なみ約束があるのである。あなたは生ける救い主にあって喜ぶことができる。このお方はよみがえられたわたしたちの主である。このお方のみ約束は、このお方を受け入れるすべての者たちのものである。

神のみ言葉にある神の教訓はわたしたちに、人全体が敬意をもって扱われるべきであることを示している。思いの力、強い感情は敵として押し殺すべきなのではなく、キリストの支配下に導かれ、このお方の奉仕のために生かされるべきである。武具で身を覆われ、わたしたちは真理と義のために戦うべきである。わたしたちのすべての力は、純粋な目的のために捧げられるべきである。キリストは人類を贖うために来られた。このお方はわたしたちのすべての行動に関心を持っておられる。このお方はわたしたちを神に似た姿にかたどり、形成したいと望まれる。すべての判決が決定されるまで、キリストは休まれることはない。わたしはこのお方の憂慮と、このお方がわたしたちを愛する大いなる愛を見ることを許されてきた。わたしは、わたしたちの事業の歴史におけるこのお方の摂理の過去の導きに関して何の疑いもない。わたしがもし神がイスラエルの子らにお与えになった譴責から教訓を学ぶことができないなら、彼らと同様に有罪な者となることだろう。男女が違反と罪から立ち返り、絶えず見張ることによって自分たちの最も弱い点を自分たちの最も強い点にするのでなければ、不服従は必ず罰せられねばならず、また罰せられることになる。暗闇は服従を通して光となる。……

キリストはご自分の力の祝福に満ちたメッセージを与えてこられた。このお方は人類を贖うために来られた。そして、このお方はサタンの欺きからご自分の群れを救うために、メッセージに次ぐメッセージを送られるのである。このお方は贖われた宇宙が休息を得るまで、ご自分のメッセージを送るのをお止めになることはない。（手紙100, 1906年3月23日年をとった自給伝道の働き人、スティーブン・ベルデン兄弟姉妹へ）

3月24日

矛盾のないクリスチャン

「神は光であって、神には少しの暗いところもない。……神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。」（ヨハネ第一1:5 〜 7）

光の源につながり、この生きたつながりによって世の光となることは、クリスチャンの特権である。キリストの真の弟子たちは、キリストが光のうちにおられるように光のうちに歩むのであるから、不確かな道を旅して闇の中を歩むことによってつまずくことはない。偉大な教師は、ご自分に聞く者たちに、世に対して彼らがどのような祝福となることができるかを、東から昇りながら霧と暗闇の影を払い去る太陽として表し、印象づけておられる。暁は昼に変わる。金色に輝きながら、淡く染めていき、そののちその光の炎で諸天を栄光に輝かせる太陽は、クリスチャン生涯の象徴である。太陽の光が、生けるすべてのものにとって光と命と祝福であるように、クリスチャンは彼らの良い行いによって、また快活さと勇気によって世の光となるべきである。太陽の光が夜の影を追い払い、谷と丘にその栄光を注ぐように、クリスチャンは自分の上に輝く義の太陽を反射するのである。

キリストの真の弟子たちの矛盾のない生活を前にして、無知、迷信、また暗闇は、太陽が夜の影を払い去るように過ぎ去る。同様にイエスの弟子たちは地の暗いところに出て行って、暗闇にいる者たちの道が真理の光によって照らされるまで真理の光を広めるのである。

これに対して、神の子であると公言する味のない塩のような者たちの生活は、何と対照的なことであろう。彼は神と生きたつながりを持っておらず、何の価値もない塩―キリストがもはや、何の役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけであると描写されたもの―のようである。彼は救いとなる特性を持っていない。キリストの弟子と公言する者がイエス・キリストと生きたつながりを持っていないなら、彼らの生命はこのようなものである。これらの太陽を持っていない公言者たちは、暗闇の影である。……

疑いの表現はすべて不信を強める。すべての望みや勇気、また光や愛の思いや言葉は、信仰を強め、世に存在している道徳的暗闇に持ちこたえるよう魂を要塞で囲む。信仰を語る者は信仰を持つようになり、失望を語る者は失望するようになる。眺めることによってわたしたちは変えられるのである。（手紙 16, 1880 年 3 月 24 日、世界総会の役員へ）

3月25日

試算表を作る

「すべてのものを識別して、良いものを守り」（テサロニケ第一 5:21）

兄弟方よ、わたしたちは真理の鉱山を深く掘り下げなければならない。もしただ正しい精神のうちになされさえするのであれば、あなたは自分自身に、または互いに問題を質問してもよい。しかし、あまりにも多くの場合、自己が大きく、研究が始まるや否や、反キリストの精神が表される。これはまさにサタンが喜ぶものであり、かえってわたしたちは何が真理であるかを自分で知るためにへりくだった心をもって来るべきである。わたしたちが別れ別れに散らされる時が近づいているのであり、わたしたちは各々、同じ尊い真理を持つ者たちと交わる特権なく立たなければならないようになる。もし神があなたの側におられず、またこのお方があなたを導き、案内しておられることを知らないならば、いかに立つことができようか。わたしたちが聖書の真理を研究するときはいつでも、集会の主人であるお方がわたしたちと共におられるのである。主は一瞬たりとも船が無知な水先案内人によって舵を取られるがままにはされないのである。わたしたちは救いの将から指令を受けることができる。……

もし兄弟が誤りを教えているなら、責任ある立場にいる者たちはそれを知るべきである。そしてもし彼が真理を教えているなら、彼らは彼の側に立場をとらなければならない。わたしたちすべての者が、自分たちの間で何が教えられているのかを知るべきである。なぜならもしそれが真理であれば、それを知る必要があるからである。安息日学校の教師がそれを知る必要があり、そして安息日学校のすべての生徒たちはそれを理解しなければならない。わたしたちすべての者は、神がわたしたちに送られることを知るべき義務のもとにいる。このお方は、わたしたちがすべての教理を試すことができる教えを与えてこられた―「ただ律法とあかしとに求めよ。彼らがこの言葉に従って語らなければ、彼らのうちに光がないからである」（イザヤ 8:20 英語訳）。しかし、もしそれがこのテストに従っているなら、それがあなたにはっきりした時には、単にそれがあなたの見解に一致しないからといって、要点を認めることができなくなるほど偏見に満たされていてはならない。

どんなに小さくてもすべての異議に飛びつき、それをできるだけ大きくして、将来使おうと保存してはならない。だれもわたしたちがだれかの研究に完全を見出すであろうとは言ってはいないが、わたしはこのことを知っている。すなわち、わたしたちの教会がキリストを信じる信仰による義という主題と同類の真理に関する教えに欠乏して死につつあることを。

だれによって光が送られたかにかかわらず、わたしたちはそれを受けるためにキリストの柔和のうちに心を開くべきである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1890 年 3 月 25 日）

3月26日

罪から分離する

「このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。」（コロサイ 3:1, 2）

神のご要求はわたしたちの前にはっきり示されているのであり、解決すべき問題はこれである。わたしたちがそれらに従うであろうか。わたしたちはこのお方のみ言葉に定められている条件―世からの分離―を受け入れるであろうか。これは一瞬、または一日の働きではない。それは家族の祭壇において頭を下げることによって、また口先だけの信心を捧げることによって、また公における勧告と祈りによって達成されるのではない。それは一生の働きである。わたしたちの神への献身は、生活と織り合わされ、自己否定と自己犠牲へと導く生きた原則とならなければならない。それはわたしたちのすべての思いの根底になければならず、すべての行動の源泉とならなければならない。これは世を越えてわたしたちを高め、その堕落させる感化から分離させるのである。

わたしたちのすべての行動は自分たちの宗教経験によって影響される。そして、もしこの経験が神に基礎を置き、わたしたちが信心の奥義を理解するなら、またもしわたしたちが日毎に来るべき世界の力を受け、神とつねに交流し、み霊との交わりを持つなら、またもしわたしたちが毎日ますますしっかりとより高い生命をつかんで、贖い主の血の滴る脇へとますます近くなおも近づいていくなら、わたしたちのうちに聖にして向上させる原則が織り込まれるのである。その時、栄光の天使にとって世の堕落させる感化から死すべき者たちを救うことにおいて自分たちに割り当てられた愛の使命を実行することが自然であるように、わたしたちにとって純潔と聖潔と世からの分離を求めることが自然なこととなるのである。神の都の真珠の門に入るすべての者たちは、み言葉を行う者である。彼は世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるのである。キリストの内に満ち満ちているものを悟り、このお方を通して備えられた祝福を受けることはわたしたちの特権である。わたしたちが地上の低地から高められ、神と天の事柄にわたしたちの愛情をしっかりと結びつけるようにと十分な準備がなされてきたのである。

神の戒めに服従して世から離れるこの分離は、主がわたしたちに残された働きをなすのにわたしたちを不適任な者とするのであろうか。それは自分たちの周りの者たちに、わたしたちが善を行うことを妨げるのだろうか。否、天を固くつかめばつかむほど、世におけるわたしたちの有用性の力はますます大きなものとなるのである。（原稿 1, 1869 年 3 月 26 日「準備の働きにおける勤勉」）

3月27日

救いに定着する

「最後に言う。主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。」（エペソ6:10）

もしあなたがたが光と知恵の源であるイエス・キリストに密接につながっているなら、あなたがたはキリストにあって強い男女となることができる。わたしたちは自分たちが神と近いことを示す特別な証拠がないことを気にも留めずに満足しているために、成功を収めることができるはずのところで失敗する。わたしたちが人気のない真理を信じることができるためばかりではなく、このお方のうちに喜びを得ることができるように、すべての備えがイエスによってなされた。真理は愛によって働き、信仰も愛によって働く、そしてそれは魂を清めるのである。……

そこで質問は、あなたがたは真理の知識を得ているであろうか、ということである。あなたがたはイエス・キリストとの生きたつながりを持っているだろうか。あなたがたはアブラハムが生きたつながりを持ち、天使と語り、彼らに頼みごとをすることができたことを読む。あなたがたはモーセが神との生きたつながりを持ち、彼の真剣な嘆願は神の栄光を見させてくださいということであったことを読む。「どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示しください」というのが彼の嘆願であった。主は彼がその願いをしたことを戒められなかった。彼は神と神の栄光をさらに知ろうとしたことにおいて、思い上がったのではなかった。それどころかわたしたちはその信仰の強い人物が岩の裂け目に隠され、神のみ手がその岩の上に置かれ、そしてそのときこのお方が彼にご自分の栄光を示されたのを見るのである。

わたしたちは自分たちの信仰また経験において十分な熱心さを持ち合わせていない。……わたしはあなたがたのうちだれ一人として、真理を信じたからといって満足した立場をとって落ち着いてしまうことがないようにと願う。全世界に救うべき魂がいるかぎり、これらの魂を救うことができるように、あなたがたはすべての光と力の源に自ら求めていかなくてはならないのである。あなたがたは自分の経験が地上の世俗の型にはめられることが重要だとは思わない。あなたがたには救われるかもしくは失われることになる魂があるのであり、あなたがたは自分の生活に、また品性に、そして経験に、はるかにもっと多くのイエスが持ち込まれることを望んでいる。あなたがたは自分がいるすべての立場において真実であることによって、また自分が地上における神の代表者であることを感じることによって、互いに助けや祝福となることができる。……

あなたがたに真理がしばしば繰り返されるからといって、それが特別な益をもたらすことのない問題となってはならない。そうではなくそれがわたしたちを日毎に、神の御国の天の御使いたちの社会にふさわしいものとなさせるものとしなさい。（原稿19a、1886年3月27日「アブラハムの生涯からの教訓」）

3月28日

このお方の変わることのないご臨在

「あなたはいのちの道をわたしに示される。あなたの前には満ちあふれる喜びがあり、あなたの右には、とこしえにもろもろの楽しみがある。」（詩篇 16:11）

この世はわたしたちの学校―規律と訓練の学校―である。わたしたちはキリストの品性に似た品性を形づくるために、またさらに高い生命の習慣と言葉を習得するためにここに置かれている。善に対抗する感化がいたるところに溢れている。罪の発達があまりにも満ち満ちて、あまりにも深く、神にとってあまりにも忌まわしいものとなっているので、このお方はまもなく地を恐ろしいほど震うために威厳のうちに立ち上がられるのである。敵の計画があまりにも巧みで、彼のもたらす混乱があまりにももっともらしいので、信仰が弱い者たちは彼の欺きを識別することができない。もしできることなら選民をも惑わすために人間の器を通して働くサタンによって用意されたわなに彼らは落ちる。神に密接につながっている者たちだけが、敵の偽りや陰謀を見分けることができる。……

勝利した者たちを待っている栄光を考えてみなさい。そのご臨在のうちには満ちあふれる喜びがあり、その右にはとこしえにもろもろの楽しみがあるお方のみ顔を、彼らは見るのである。

神にわたしたちの思いを支配していただこう。正しい道から同胞を離れさせるようなことは何であっても、言ったり行ったりしないようにしよう。

よみがえられ、昇天された救い主との交わりの深い祝福を味わったことを表す者が、何と少ないかということを考えるとき、わたしはとても悲しく思う。この世の者たちは最高位を争っている。神に従う者たちは、これは主の道であろうかと問いながら、いつもキリストを視野に保つべきである。キリストの命を生きたいという聖なる願いが、わたしたちの心を満たすべきである。このお方のうちに満ち満ちている神の徳が、かたちをとって宿っている。このお方のうちに知恵と知識との宝が、いっさい隠されている。

ああ、わたしたちの民がイエスをつねに眺めるなら、どれほどの利益が自分たちのものとなるかを悟ることができるなら。「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである」（コリント第二 3:18）。このお方はわたしたちのアルパでありオメガであられる。このお方のそば近くに迫り、このお方と交わりを持つことによって、わたしたちはこのお方のようになるのである。キリストの霊の変化させる力を通して、わたしたちは心と生活において変えられるのである。このお方のみ言葉は魂の板に刻まれており、わたしたちは毎日の生活においてこのお方を表すこのお方の証人である。（手紙 47, 1903 年 3 月 28 日、自分の国民のために働いているユダヤ人の牧師 F. C. ギルバートへ）

3月29日

あなたが得たものを与える

「物惜しみしない者は富み、人を潤す者は自分も潤される。」（箴言 11:25）

物惜しみしないことは聖霊の命令の一つであり、神の民と公言している者たちが什一や捧げものにおいて、主ご自身のものを主に差し出さないとき、彼らは霊的な損失に会うのである。主は物惜しみしない精神を制限するときは報いてくださらない。このお方はご自分の民に彼らの財産と彼らの全収入の初穂をもってご自分に誉れを帰すように呼びかけておられる。

すべての状況に規則を定めることは不可能である。なぜなら多くの場合、そのような方針は、与える者を悩ますからである。ある者たちが置かれている状況、また神の定めによって置かれている状況は考慮されるべきである。主は人に持っているものを分け与えることを求めておられるのであり、持っていないものを求めておられるのではない。ある者は収入の十分の一は、彼らが主に捧げるべき割合を適切に表していないと考えるが、他の者は公正な返納だと考えるのである。

神ご自身のものを神に対して差し控えるがゆえに、何と多くの者たちが豊かな祝福を失い、霊的小人になっていることであろう。神と人の敵は、神に属している宝を流用し、人間を喜ばせ、誉れと栄光を帰すために絶え間なく働いている。人は、わが家はあれもこれも必要としていると言い、次々と便利なものが家具、衣類、食卓の珍味という形で家に加えられていく。彼らは自分たちの欲求を制限できないが、もしそうするなら、それによって彼らは自分とその家族に祝福をもたらすのである。

神はこの地上にご自分の御国を進展させるという偉大な働きにおいて、わたしたちをご自分の社会福祉係また協力者とされた。わたしたちは不忠実な僕の取った進路を取り、そうすることによって人にかつて与えられた特権の中で最も尊いものを失うことも可能である。何千年もの間、神は人の代理を通して働いてこられたが、このお方はみ旨のままに利己的な者、金を愛する者、貪欲な者を退けることがおできになる。このお方はわたしたちが何の役割を果たさなくても、ご自分の働きを進めることがおできになる。しかしわたしたちのうちのだれが、主がこうなさることを喜ぶであろうか。

主は心のすべての思想と、思いのすべての衝動を読まれる。もしわたしたちが惜しみなく与える精神を持っていないのなら、このお方をあざけっているのである。

わたしたちが世と天使と人に神のみ事業の繁栄を、第一に考慮していることを示すとき、神はわたしたちを祝福されるのである。（原稿 47, 1899 年 3 月 29 日、「神は快く与えるものを愛される。」）

3月30日

わたしのともし火に油を与えてください

「万軍の主は仰せられる、これは権勢によらず、能力によらず、わたしの霊によるのである。」（ゼカリヤ 4:6）

わたしたちは自分たちがただの小さな光にしかすぎないからといって、わたしたちが輝くことについて細心の注意を払う必要はないと考える必要はない。わたしたちの光の大きな価値は、世の道徳的暗闇の中にあって一貫して輝くこと、また自分たちを喜ばせ栄光を帰すためではなく、わたしたちにあるすべてをもって神に誉れを帰すために輝くことにある。もしわたしたちが神のために奉仕をし、わたしたちの働きが神の賜わる能力に相応しているなら、それだけがこのお方がわたしたちに期待しておられることなのである。……

わたしたちは自分たちに光を与えるともし火は、それ自体には光がないことを知っている。それらはそれ自体を満たすことができない。そうであるから聖なる任命された者が、金の管に金の油を注がなければならないのである。そして天来の火がともされるとき、それらを燃え上がる輝く光とする。わたしたちの心は天との生きたつながりがあるようになる時までは、光を反射することができない。これだけが、それらをイエスとこのお方の血によって買い取られたすべての者たちに対する聖なる無私の愛によって、絶えず燃えさせることができるのである。そしてわたしたちがつねに金の油によって補充されていないかぎり、炎は消えてしまうのである。神の愛がわたしたちの心における不変の原則でなければ、わたしたちの光は消えてしまう……

サタンと同盟の天使たちは、神の子供であると公言しながら、その実その気質と行動によって自分たちが背教者に似たものであることを示す者たちを指差しながら、キリストと天の御使たちをあざけるのである。このようにしてわたしたちはどのくらい長く神の御子をまたもや、自ら十字架につけて、神がわたしたちをご自分の息子娘と呼ぶことを恥とされるようにするのだろう。今は子供じみたことを捨てるときではないだろうか。わたしたちは常に学んではいるが、いつになっても真理の知識に達することができない者に数えられるのだろうか。

絶え間ない明るく輝く光をつくる金の器に伝わるように、天の御使たちが金の管に注ぐのは金の油である。人間の代理を神のために明るく輝く光として保つのは、彼に常に移される神の愛である。そのとき、彼は光と真理を暗闇と誤りと罪の中にいるすべての者たちに伝えることができるのである。金の油は人間の能力によって作り出されていない。それは暗闇にいるすべての者が天の光を放つことができるようにするために彼らに伝えるために、神のみ座の前で待つ聖なる使命者たちの見えざる力である。信仰によって神につながる者たちの心に、このお方の愛という金の油が惜しげもなく流れるのである。（原稿 27, 1897 年 3 月 30 日「真理の宝庫である教会」）

3月31日

このお方の買い取られた所有

「わたしたちの戦いの武器は、肉のものではなく、神のためには要塞をも破壊するほどの力あるものである。わたしたちはさまざまな議論を破り、神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ、」（コリント第二 10:4, 5）

理にかなわない悪い人々と関係するに当たり、真理を信じる者たちは、強い個人的な感情の抑制を緩めることによって、また自分自身と主がするようにと与えられた働きに対して激情と苦い憎しみを起こすことによって、自分自身も敵が用いているのと同じサタンの武器を使うようになるような、同じ水準まで下がることのないように気をつけるべきである。イエスを高く保ち続けなさい。わたしたちは神との同労者である。わたしたちは敵のとりでを引き落とすのに力強い霊の武器を与えられている。わたしたちは、どんな場合にもキリストに似ていない特質を働きに織り込むことによって、自分たちの信仰を誤って伝えてはならない。わたしたちは、イエス・キリストと共にわたしたちを束ね、またこのお方を愛してこのお方の戒めを守るすべての者を束ねて引き上げる神の律法を高めなければならない。わたしたちはまた、キリストが死なれた魂のために愛を示すべきである。わたしたちの信仰はキリストが創始者であられる力として、立証されるべきである。そして聖書、このお方のみ言葉が救いに至らせる知恵をわたしたちに与えるべきである。

キリストの義が、その命を与える感化力と共に魂のうちに入るようにしなさい。そのときあなたは、主があなたのすべての不義を許されると讃美することができるのである。あなたは、自分が霊的病で満たされていると言う。偉大な医師はあなたを癒そうと、あなたをご自分の許に来るようにと呼んでおられる。主はあなたのすべての病を癒される。これらの病の最悪のものは、ねたみ、嫉妬、悪い憶測、悪口、神の働きに反抗して働く計画に従おうとする願いである。すべての者の生活は聖とならなければならないが、彼らは腐敗で満たされており、このために人はたやすくサタンの誘惑の餌食となるのである。しかし、キリストがあなたの心に宿られるなら、主はわたしたちの命を滅びから贖いだし、いつくしみと、あわれみとをわたしたちにこうむらせると言うことができる。その時、賛美の歌があなたの唇と心にあるようにしなさい。わたしたちのためのキリストの苦しみを瞑想しなさい。他の人々のうちに責め、非難するための何かを探そうと見張っている代わりに、このお方には許しがあることを主に感謝しなさい。キリストはわたしたちが批判し責めるとき深く悲しまれる。なぜならこれはサタンの働きだからである。救いの井戸から水を汲み、主を讃め称えよう。

説教をすることが、魂が新しく生まれ変わったという証拠となるのではない。ご自分の牧場の羊に対するキリストの優しさを感謝することが、その証拠となるのである。（原稿 46, 1898 年 3 月 31 日、「神の民の前にある働き」）

研究 3

清めの特別な働き

キリストの働きの中心―天の聖所

先月から、わたしたちは罪人に示された聖所について学んでいます。

罪を犯して神の栄光を失ったアダムに与えられた「衣」は、キリストの犠牲を必要としました。その衣を着たアダムは、神のご臨在の約束されたケルビムの間で再び神のみ前に出て礼拝を捧げることができました。これが罪人に表された聖所の奉仕の始まりです。

こうして、罪によって生じた正義と憐れみの間の広い深淵は、聖所におけるキリストの働きによって再び結合するのでした。この聖所で、「いつくしみと、まことが共に会い、義と平和とは互に口づけし」、「どのようにキリストの義が堕落した人類に与えられることができるかが明らかにされて」います（彼を知るために 10）。「律法の板を入れた箱は、贖罪所で覆われていて、その前でキリストは、ご自分の血によって罪人のためにとりなしをなさる。こうして、人類の贖いの計画における、義といつくしみの結合が表されている。この結合は、……天使たちもうかがい見たいと願っている、あわれみの神秘である」（各時代の大争闘下巻 127, 128）。

「天の聖所は、人類のためのキリストのお働きの中心そのものである」（各時代の大争闘下巻 222）。

「天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救いの計画にとって欠くことのできないものである」（各時代の大争闘下巻 222）。

これが、わたしたちのすべての注意力を聖所に注ぐべき理由です。こうして、聖所におけるキリストの働きを知り、これにあずかることが、罪人であるわたしたちの唯一の希望です。

しかし、このキリストの贖いの働きの中心である聖所がどこにあるのでしょうか。今回はこれを学んでいきます。

預言の霊（証の書）による聖所の主題：

「聖所問題が、1844 年の失望の秘密を解くかぎであった。それは、互いに関連し調和する真理の全体系を明らかにし、神のみ手が大再臨運動を導いてきたことを示し、そして、神の民の立場と働きとをはっきりさせて、今なすべきことを明らかにした」（各時代の大争闘下巻 138）。

ダニエル 8:14 にある聖所の清めについての 2300 日の預言は、たしかに 1844 年に成就しましたが、再臨信徒たちは、当時その預言の成就を認めることができませんでした。これにより大失望を経験することになりましたが、その秘密を解くかぎは、この聖所とは何か、どこにあるのかという聖所の理解にあったのです。

イエスと共にいて心からその来臨を待ち望んでいた人々を見守っておられた神は、彼らが失望のうちに残されるままにはなさらず、ご自分のみ言葉に再び注意を向けさせ、この問題を理解させてくださいました。

では、み言葉はなんと述べているでしょうか。

「真理の探究者たちは、再びヘブル人への手紙にもどって、第二の、すなわち新しい契約の聖所の存在が、すでに引用した『初めの契約にも、礼拝についてのさまざまな規定と、地上の聖所とがあった』というパウロの言葉に暗示されていることを発見した。そして、『も』という言葉が用いられていることは、パウロが前にこの聖所について述べたということを暗示している。彼らは、その前の章にもどって、次のところを読んだ。『以上述べたことの要点は、このような大祭司がわたしたちのためにおられ、天にあって大能者の御座の右に座し、人間によらず主によって設けられた真の幕屋なる聖所で仕えておられる、ということである』（ヘブル 8:1, 2）」（各時代の大争闘下巻 125）

こうして、彼らは聖書の中に聖所についての真理を見いだしました。

聖所についての聖書的概念

「主は、次のように指示された。『すべて（わたしが）あなたに示す幕屋の型および、そのもろもろの器の型に従って、これを造らなければならない。』また、次の命令が与えられた。『そしてあなたが山で示された型に従い、注意してこれを造らなければならない』(出エジプト記 25:9, 40)。パウロは、最初の幕屋は、『その当時のための象徴であり、そこで供え物やいけにえがささげられた』（英語訳）と言っている。続いて彼は、その聖所は『天にあるもののひな型』であり、律法に従って供え物をささげる祭司たちは、『天にある聖所のひな型と影とに仕えている者』であり、『キリストは、ほんとうのものの模型にすぎない、手で造った聖所にはいらないで、上なる天にはいり、今やわたしたちのために神のみまえに出て下さったのである』と言っている（ヘブル 9:9, 23; 8:5; 9:24)」（各時代の大争闘下巻 125)。

「聖所とは何かという質問に対して、聖書ははっきりと解答を与えている。聖書に用いられている『聖所』という言葉は、まず第一に、天にあるもののひな型としてモーセが建てた幕屋をさし、そして第二に、地上の聖所が指し示していたところの、天にある『真の幕屋をさしている』」（各時代の大争闘下巻 130)。

天において

「人間によらず主によって設けられた真の幕屋なる聖所で仕えておられる、ということである」（ヘブル 8:2)。

「ここに、新しい契約の聖所が明らかにされている」（各時代の大争闘下巻 125)。

地上で

「それによって聖霊は、前方の幕屋が存在している限り、聖所にはいる道はまだ開かれていないことを、明らかに示している」（ヘブル 9:8)。

「この幕屋というのは**今の時代に対する比喩**である。すなわち、供え物やいけにえはささげられる……」（ヘブル 9:9)。

「ところが、キリストは、**ほんとうのものの模型**にすぎない、手で造った聖所にはいらない」（ヘブル 9:24）。

「イエスがわれわれのために仕えておられる天の聖所は、大いなる原型であって、モーセが建てた聖所は、その写しであった」（各時代の大争闘下巻 126）。

「イエスが、われわれのために奉仕しておられるその聖所が本来のものであって、モーセの建てた聖所はその写しであった」（人類のあけぼの下巻 421）

モーセの時代に建設されるように命じられた地上の聖所は、天の聖所の正確な写しであり、ここでなされた奉仕を見ることによって、イスラエルの人々はキリストが天でなされる奉仕を預言的に学んだのでした。ですから、わたしたちもこの地上でなされた奉仕を研究することにより、天でキリストがどのように奉仕をなさるのかを学ぶことができます。

両方に二つの部屋がある

「このように、天にあるもののひな型は、これらのものできよめられる必要があるが、天にあるものは、これらより更にすぐれたいけにえで、きよめられねばならない」（ヘブル 9:23）。

「天の聖所の聖所と至聖所は、地上の聖所の二つの部屋によって表わされている。使徒ヨハネは、幻のなかで、天にある神の宮を見ることを許されたとき、「七つのともし火が、御座の前で燃えてい」るのを見た（黙示録 4:5）。彼は、一人の天使が、「金の香炉を手に持って祭壇の前に立った。たくさんの香が彼に与えられていたが、これは、すべての聖徒の祈に加えて、御座の前の金の祭壇（香壇）の上にささげるためのものであった」のを見た（黙示録 8:3）。ここで、預言者は、天の聖所の第一の部屋を見ることを許された。そして、そこに、地上の聖所の金の燭台と香壇によって表わされていたところの、「七つのともし火」と「金の祭壇」を見た。再び、「天にある神の聖所が開けて」（黙示録 11:19）、彼は、奥の幕の中の、至聖所を見た。彼はここで、「（彼の）契約の箱」を見た。それは、神の律法を入れるためにモーセが作った聖なる箱によって表わされていたものであった」（各時代の大争闘下巻 127）。

パウロは、キリストは昇天後、「天にあって大能者の御座の右に座し、人間

によらず主によって設けられた真の幕屋なる聖所で仕えておられる」と述べています（ヘブル 8:2）その天の聖所にも二つの部屋があり、「まず幕屋が設けられ……これが、聖所と呼ばれた。また第二の幕の後に、別の場所があり、それは至聖所と呼ばれ」ました（ヘブル 9:2, 3）。使徒ヨハネが「七つのともし火」（黙示録 4:5）や「金の祭壇（香壇）」（黙示録 8:3）を見たように、キリストが復活後、昇天されたときに入られた部屋は、第一の部屋でした。しかし、地上の聖所と同様に、聖所の奉仕は第一の部屋で終わるのではなく、第二の部屋での奉仕までなされて初めて完成します。

イエスは両方の部屋で奉仕される

「イエスは、立って、天の聖所の聖所の門を閉じ、至聖所の門を開いて、聖所の清めを行うために、その中に入られた。……。わたしは、イエスが、至聖所におられるときに、新エルサレムと結婚なさることを見た。そして、至聖所における働きが終わったあとで、王の権威をもって地にくだり、忍耐深く彼の再臨を待望していた貴重な人々を、ご自分のところにお迎えになるのである」（初代文集 409, 410）。

「**イエスが、聖所における働きを終わり、その部屋の戸口を閉じられたときに、**……イエスは、立派な衣服を着ておられた。彼の衣服のすその回りには、鈴とざくろ、そしてまた鈴とざくろがついていた。彼の肩からは、見事な細工を施した胸当がかかっていた。彼が動かれると、これがダイヤモンドのように輝き、胸当に書かれたか、または刻まれたかと思われる、名前のような文字を浮き上がらせていた。また、主は冠のようなものを頭にかぶっておられた。彼が衣服を完全に整えられたときに、彼は、天使たちにかこまれて、火の車に乗り、**第二の幕の中に入って**行かれた」（初代文集 410, 411）。

「わたしはまた、**地上の聖所に二つの部屋があるのを示された。それは、天にある聖所に似ていた。**そして、それは天にあるものにかたどられたものであることが告げられた。地上の聖所の第一の部屋の器具は天の聖所の第一室のものと似ていた、幕が上げられて、わたしは至聖所の中を見た。その器具は、天の聖所の至聖所にあるものと同じであった。祭司は、地上の聖所の両方の部屋で務めを行った。彼は、毎日、第一の部屋に入ったが、至聖所には、一年に一度だ

けはいり、そこに持ちこまれた罪の清めを行った。わたしは、**イエスが、天の聖所の両方の部屋で務めを行われるのを見た**」(初代文集 412)。

真の大祭司イエスは、第一の部屋が終わられると、第二の部屋での奉仕を始められるのでした。

「天の宮は王の王である神の住居である。そこでは、千の幾千倍の者がこれに仕え、万の幾万倍の者がその前にはべり、輝かしい守護のセラピムが顔をおおって崇敬をささげる永遠のみ座の栄光で満ちている。地上のいかなる建造物も、その広大さと輝かしさをあらわすことができない。だが、**天の聖所と、人間のあがないのためにそこで行なわれる大いなるみわざとに関する重要な真理が、地上の聖所とそのつとめによって教えられた**」(人類のあけぼの上巻 421)。

天の聖所の実在について議論の余地がない証拠

「モーセは、示された型に従って、地上の聖所を造った。パウロはその型となった天の聖所が、真の聖所であると**教えている**。そしてヨハネは、それを天に見たと証言している」(各時代の大争闘下巻 127)。

ダニエル 8:14 の聖所

「そして、ダニエル書 8:14 の預言は、この時代に成就されるのであるから、ここで言う聖所は、**新しい契約の聖所**であるに違いない。2300 日が 1844 年に終結したときに、この地上には幾世紀もの間、聖所はなかった。こうして、「二千三百の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する」という預言は、**疑いもなく天の聖所をさす**のである」(各時代の大争闘下巻 130)。

こうして、わたしたちは 1844 年に 2300 年の預言により開始された聖所の清めは、キリストが至聖所に入って開始された働きであることを理解することができるのです。

（50 ページの続き）

このお方は世がそのみじめさと罪のうちに、神さまから離れているのをごらんになりました。このすべてのみじめさは人が神に背を向け、サタンを礼拝した結果でした。

キリストは失われたものをあがないたいとの切なる思いに満たされました。このお方は世界をそのエデンの美しさ以上のものに回復することを切望されました。この方は人を神さまと共に有利な位置におきたいと望まれました。

罪深い人類のためにこのお方は誘惑に耐えられました。このお方は彼らが打ち勝つことができるように、また天使とひとしいものとされるために、そして神さまの子として認められるのにふさわしい者となるために、勝利者にならなくてはなりませんでした。

サタンを礼拝するようにという要求にキリストは答えて、「サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」と言われました。

世を愛する心、力を求める欲望、生活の誇り―神さまの礼拝から人を引き離すすべてのこと―は、このキリストの大きな誘惑のなかにふくまれていました。

サタンはもし悪の原則に敬意を表すならばといって、キリストに世とその富を提供したのでした。同じように、サタンはわたしたちに悪い行為によって得る利益を提示するのです。

彼はわたしたちに「この世において成功するためには、あなたはわたしに仕えなければならない。真実と正直さについて厳密すぎてはならない。わたしの勧告に従いなさい。そうすればわたしはあなたに富、栄誉、幸福をあたえよう」。

この勧告に従うことによって、わたしたちは神さまのかわりにサタンを礼拝することになるのです。それはわたしたちにみじめさと滅びだけをもたらすでしょう。

キリストはわたしたちが誘惑されるときに、何をすべきかをお示しになりました。

このお方がサタンに「退け」と言われたとき、誘惑者は命令に抵抗することができませんでした。彼は退散せざるを得なかったのです。

戦いはこの時に終わりました。キリストの勝利はアダムの失敗と同じくらい完全でした。

わたしたちも誘惑に抵抗し、サタンを打ち負かすことができるのです。主はわたしたちに仰せになっています。「悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。神に近づきなさい。そうすれば神はあなたがたに近づいてくださるであろう」（ヤコブ 4:7, 8）。

玄米のいなりずし

【材料】

炊いた玄米	2 合
すだちのしぼり汁（もしくは、かぼす）	大さじ 4
なければ、レモン。その場合は、	大さじ 3
粗糖	大さじ 2
塩	小さじ 1/3
にんじん（みじん切り）	軽く 1 カップ
ハス（みじん切り）	軽く 1 カップ
油揚げ	5 枚
昆布だし	1/2 カップ（昆布だし顆粒 1g と 1/2 カップ）
オリゴ糖	大さじ 5
しょう油	大さじ 2

【作り方】

1. すだちのしぼり汁とオリゴ糖と塩を混ぜてとかし、これを玄米ご飯にまぜる。
2. にんじんとハスのみじん切りを少量の水とひとつまみの塩で少々（分量外）で煮る。
3. 油揚げは半分に切って開く。熱いお湯で油抜きを行う。
4. 昆布だしとオリゴ糖としょう油をいれて沸かし、汁気がなくなるまで油揚げを煮る。（焦がさないように要注意です）
5. にんじんとハスが炊けたら、玄米酢飯に混ぜ、十等分します。
6. これを油揚げの中に一つずつ入れます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45（公開放送）

礼拝説教：11:00-12:00（公開放送）

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒 350-1391　埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

イエスの物語

第 14 話　試み（II）

サタンははじめの大きな誘惑において、キリストを打ち負かすことに失敗しました。次に彼はエルサレムの宮のいただきにこのお方をつれて行って言いました。

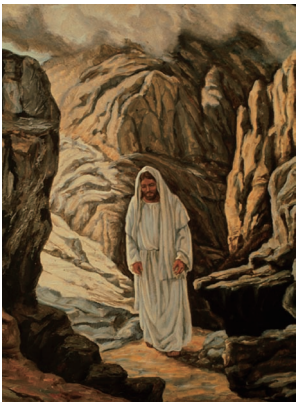
「もしあなたが神の子であるなら、下へ飛びおりてごらんなさい。『神はあなたのために御使たちにお命じになると、あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう』と書いてありますから」。

ここでサタンはキリストの模範にならって聖句を引用しました。しかし、この約束はわざと自分から危険の中に飛びこむ人のためではありません。神さまはイエスさまに宮から身を投げるようにとは仰せになってはいませんでした。イエスさまはサタンを喜ばせるためにそうなさろうとはしませんでした。「『主なるあなたの神を試みてはならない』とまた書いてある」とこのお方は言われました。

わたしたちはわたしたちの天のお父さまの保護に信頼すべきですが、このお方がわたしたちを送っておられない所へ行ってはなりません。わたしたちはこのお方が禁じられたことをしてはなりません。

神さまは憐れみぶかく、いつでも許してくださるから、このお方に従わなくてもだいじょうぶだと言う人がいます。しかし、これは憶測（おくそく）です。神さまは、許しをもとめて、悪に背を向けるすべての人を許してくださいます。しかし、このお方はご自分に従わないことを選ぶ人々を祝福することはおできになりません。

サタンは今や正体、すなわち闇の力であることをあらわしました。彼はイエスさまを高い山の頂上に連れていき、そしてこのお方にこの世のすべての王国を見せました。



壮麗な都市、大理石の宮殿、みのり豊かな畑、そしてぶどう畑を太陽が照らしていました。サタンは言いました。

「もしあなたが、ひれ伏してわたしを拝むなら、これらのものを皆あなたにあげましょう」。

一瞬、キリストはこの光景をごらんになりました。それからこのお方は背を向けられました。サタンは最も魅力的な光のうちにこの世をこのお方に示してみせました。しかし、このお方は外見上の美しさの下をごらんになりました。

（47 ページに続く）